

# 宮城県 少子化施策等に関する意識調査

—調査結果報告書—  
【概要版】

令和6年11月

宮城県 保健福祉部 子育て社会推進課

## &lt;目 次&gt;

<b>I</b>	<b>調査概要</b> .....	<b>1</b>
<b>II</b>	<b>調査結果</b> .....	<b>3</b>
	<b>1</b> あなた自身について.....	<b>3</b>
	1-1 性別.....	3
	1-2 年齢.....	3
	1-3 居住圏域.....	4
	1-4 結婚経験の有無.....	5
	1-5 結婚した年齢.....	7
	1-6 子どもの有無及び人数.....	8
	<b>2</b> 恋人との交際について.....	<b>9</b>
	2-1 交際相手との出会いを求めるために必要な機会.....	9
	<b>3</b> 結婚について.....	<b>13</b>
	3-1 結婚に対する考え方.....	13
	3-2 結婚したい(した)理由.....	17
	3-3 理想の結婚時期.....	18
	3-4 結婚相手に望むこと.....	20
	3-5 夫婦間の家事・育児負担.....	23
	3-6 結婚に関して行政に実施してほしい取組.....	24
	3-7 交際相手の有無.....	25
	3-8 交際相手は欲しいか.....	26
	3-9 交際相手が欲しくない理由.....	29
	3-10 結婚の時期.....	29
	3-11 現在結婚していない理由.....	33
	<b>4</b> 子どもや育児について.....	<b>35</b>
	4-1 理想の子どもの人数.....	35
	4-2 実際に持てると思う子どもの数が理想より少ない、 または子どもを持つつもりがない理由.....	37
	4-3 子育てをされていて負担に思うこと.....	39
	<b>5</b> 仕事と生活について.....	<b>42</b>
	5-1 現在の生活にどの程度満足しているか.....	42
	5-2 仕事、家庭生活、個人の生活等の優先度.....	43
	5-3 「子育ては母親でなければならない」という考え方.....	46
	5-4 仕事と生活の調和を図るために必要だと思うこと.....	48
	<b>6</b> 行政の取組について.....	<b>49</b>
	6-1 妊娠・出産時の身体的・精神的・経済的負担を軽減する施策で重要と 思うもの.....	49
	6-2 育児を支援する施策として重要だと思うもの.....	50
<b>III</b>	<b>総括</b> .....	<b>52</b>

# I 調査概要

## 1 調査の目的

こども基本法第10条に規定する「都道府県こども計画」である「宮城県こども計画（仮称）」の策定に向けて、「こども」や「子育て当事者等」の意識や実態等の把握、及び同法第11条に規定するこども施策の策定等に当たり「こども」や「子育て当事者等」の意見を聴取することを目的に実施した。

## 2 調査期間

令和6年7月22日（月）～令和6年8月9日（金）

※9月2日(月)回収分までを集計に含めた

## 3 調査対象

宮城県に在住する満18歳以上49歳以下の男女 合計3,000人

## 4 調査方法

郵送配布／郵送回収及びWEB回答を併用し回収

## 5 回答状況

配布数①	総回答数		有効回答数②		有効回答率 ②/①	
	紙	WEB	紙	WEB	紙	WEB
3,000	351	559	350	550	11.7%	18.3%
	合計		合計		合計	
	910		900		30.0%	

## 6 調査結果の見方

- n (number of cases) は回答割合算出における基数であり、100.0%が何人の回答に相当するかを表しています。
- 回答割合は百分率で表し、小数点第2位を四捨五入して算出しています。したがって、単一回答式の質問においては、回答割合を合計しても100.0%にならない場合があります。また、複数回答式の質問においては、各設問の調査数を基数として算出するため、全ての選択肢の割合を合計すると100.0%を超える場合があります。
- 回答が皆無（0件）であった選択肢の回答割合は、図表中では「-」と表記しています。
- 図表中またはコメント中で2つ以上の選択肢の回答割合の合算値を掲載している箇所は、四捨五入の関係で、個々の回答割合の単純な足し上げ値と一致しない場合があります。
- 調査数（n）が少数のものは、回答割合の信頼性が低いため、コメントを省略している場合があります。
- 図表及びコメントで、選択肢の語句等を一部簡略化等している場合があります。
- 一部の設問では過去に宮城県や国で実施された調査結果との比較分析を行っており、その際の図表及びコメントでは調査名を以下のように表記しています。

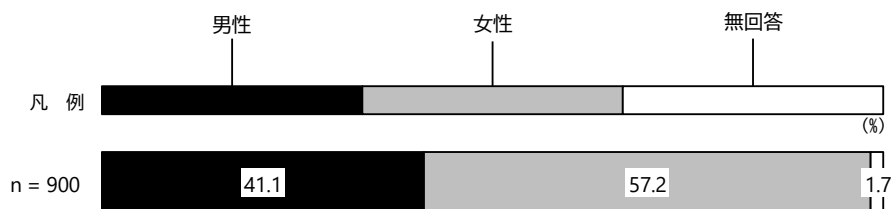
図表及びコメント上の表記	調査名	調査主体
令和6年度県調査	宮城県少子化施策等に関する意識調査	宮城県
令和2年度国調査	令和2年度少子化社会に関する 国際意識調査	内閣府
平成28年度県調査	宮城県結婚・出産・子育てに関する 意識調査	宮城県

## Ⅱ 調査結果

### 1 あなた自身について

#### 1-1 性別

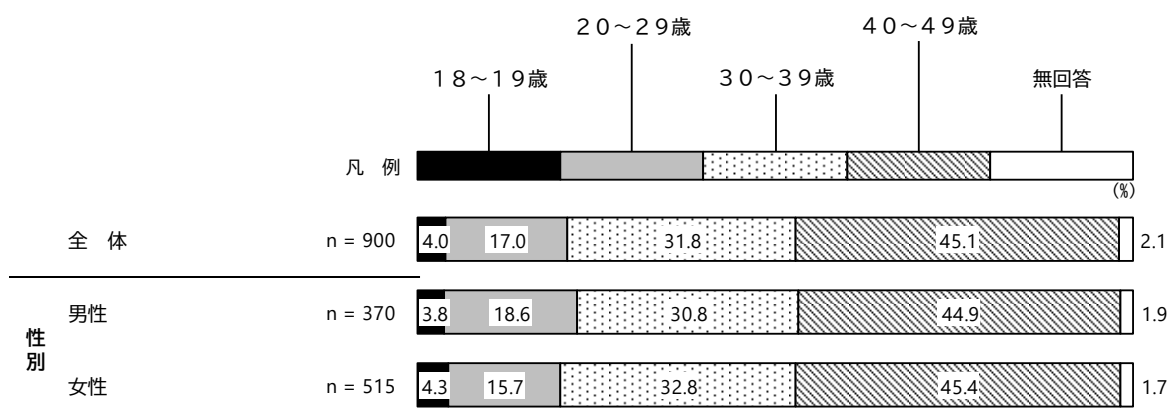
問1 あなたの性別をお知らせください。(〇は1つ)



#### 1-2 年齢

問2 あなたの満年齢をお知らせください。

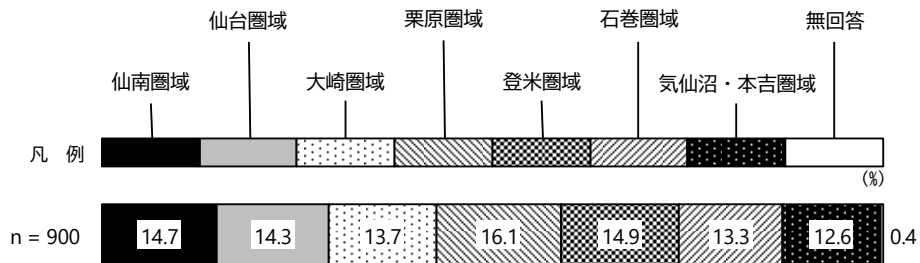
令和6年5月1日時点でお答えください。(数字を記入)



## 1-3 居住圏域

問3 あなたが現在お住まいの市町村名をお答えください。(○は1つ)

※県内35市町村を7圏域に区分して集計

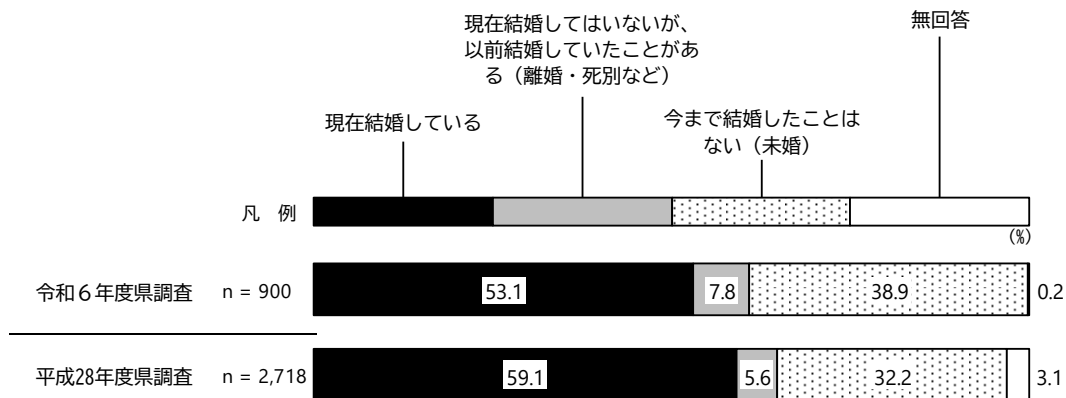


仙南圏域	: 白石市、角田市、蔵王町、七ヶ宿町、大河原町、村田町、柴田町、川崎町、丸森町
仙台圏域	: 仙台市、塩竈市、名取市、多賀城市、岩沼市、富谷市、亶理町、山元町、松島町、七ヶ浜町、利府町、大和町、大郷町、大衡村
大崎圏域	: 大崎市、色麻町、加美町、涌谷町、美里町
栗原圏域	: 栗原市
登米圏域	: 登米市
石巻圏域	: 石巻市、東松島市、女川町
気仙沼・本吉圏域	: 気仙沼市、南三陸町

## 1-4 結婚経験の有無

問5 あなたは、結婚なさっていますか。(〇は1つ)

※結婚には事実婚を含む(以下同じ)

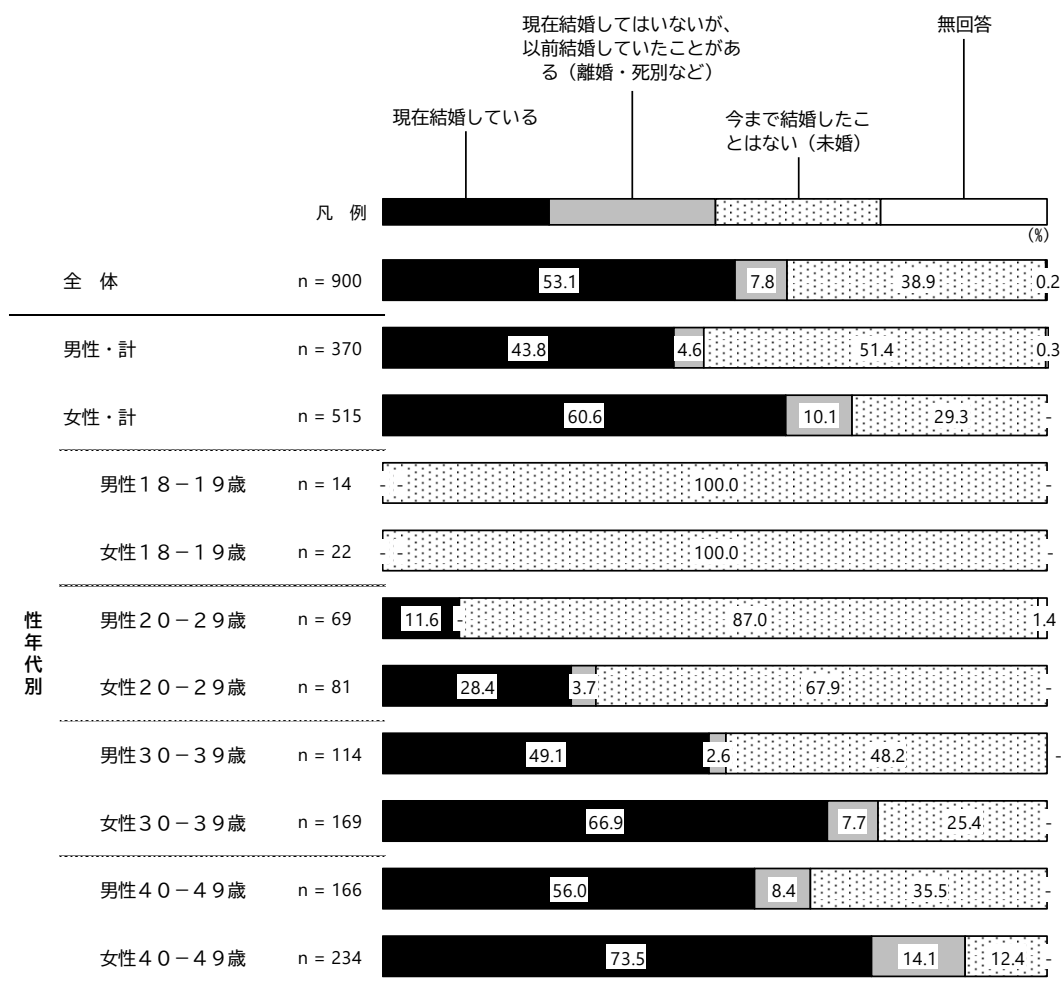


平成28年度「宮城県 結婚・出産・子育てに関する意識調査」

結婚経験の有無について、「現在結婚している」が53.1%と最も高く、次いで「今まで結婚したことはない(未婚)」(38.9%)、「現在結婚してはいないが、以前結婚していたことがある(離婚・死別など)」(7.8%)となっています。

平成28年度県調査と比較すると、「現在結婚している」が6.0ポイント低くなっている一方、「今まで結婚したことはない(未婚)」は6.7ポイント高くなっています。

## ◆性年代別／結婚経験の有無



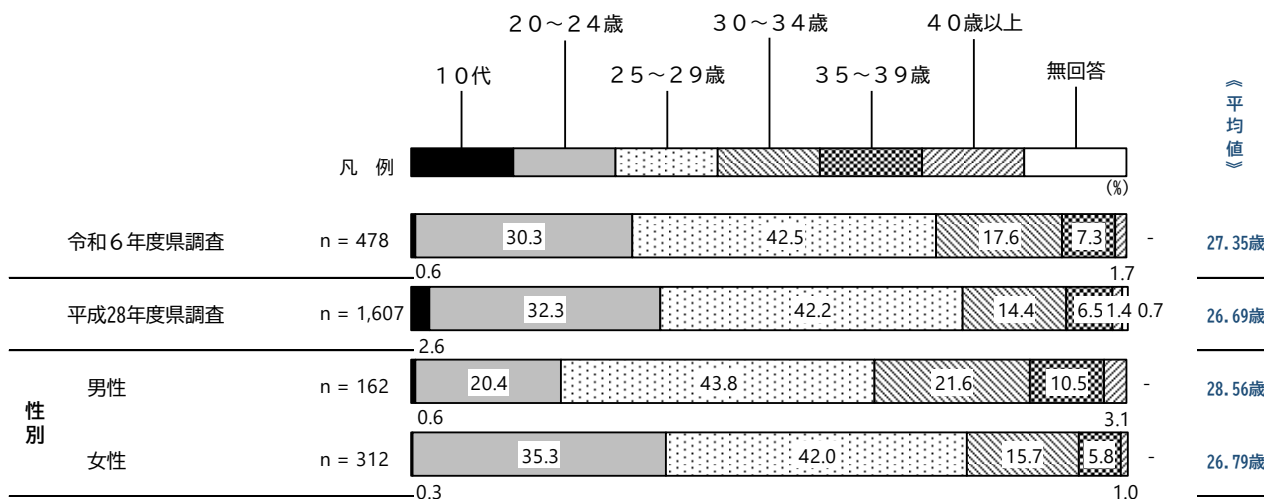
性年代別にみると、18-19歳を除く全ての年代で「現在結婚している」は男性に比べ女性で高く、「今まで結婚したことはない（未婚）」は女性に比べ男性で回答割合が高くなっています。



## 1-5 結婚した年齢

【問5で「現在結婚している」とお答えの方にお伺いします】

問6 あなたがご結婚された年齢を教えてください。(数字を記入)



平成28年度「宮城県 結婚・出産・子育てに関する意識調査」

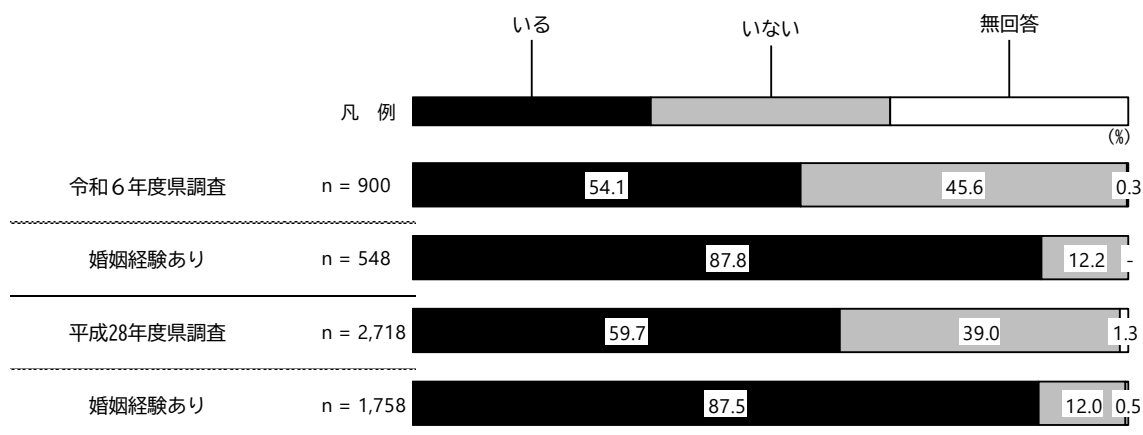
結婚した年齢について、「25～29歳」が42.5%と最も高く、次いで「20～24歳」(30.3%)、「30～34歳」(17.6%)となっています。

平成28年度県調査と比較すると、平均年齢は微増しているものの、大きな変化はみられませんでした。

性別にみると、女性では「20～24歳」が35.3%と男性に比べ14.9ポイント高くなっている一方、「25歳」以上では女性に比べ男性で回答割合が高くなっており、平均値(男性28.56歳、女性26.79歳)をみても、女性は男性に比べ結婚年齢が低い傾向があることがうかがえます。

## 1-6 子どもの有無及び人数

問8 あなたにはお子さんはいらっしゃいますか。(〇は1つ)  
 お子さんがいらっしゃる方は、お子さんの人数もお知らせください。(数字で記入)



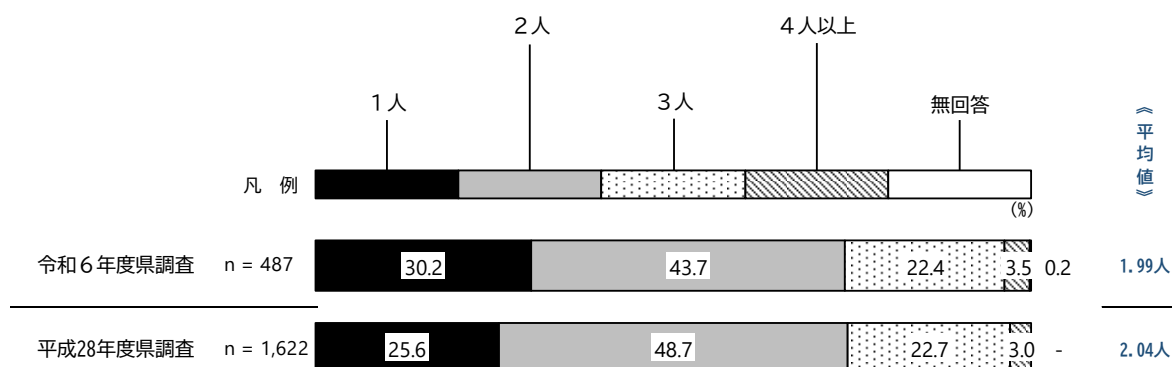
平成28年度「宮城県 結婚・出産・子育てに関する意識調査」

子どもの有無について、「いる」が54.1%、「いない」が45.6%となっています。

これを既婚者（現在は結婚していないが以前していた方を含む）のみの結果でみた場合、「いる」が87.8%と9割弱を占めています。

平成28年度県調査と比較すると、「いる」が5.6ポイント低くなっているものの、既婚者に限ってみると、ほぼ同水準となっています。

## ◆子どもの人数



平成28年度「宮城県 結婚・出産・子育てに関する意識調査」

子どもがいる場合の人数について、「2人」が43.7%と最も高く、次いで「1人」(30.2%)、「3人」(22.4%)となっています。

平成28年度県調査と比較すると、平均値が僅かに減少して2人を下回っています。

子どもがいる場合の子どもの人数はほぼ平成28年度の平均値と変わりませんが、合計特殊出生率は低下し続けています。要因として平成27年度と令和2年度の国勢調査から20歳未満～49歳の単独世帯女性人口の増加や未婚の女性の増加が考えられます。

計算式

合計特殊出生率：15～49歳までの女性の年齢別出生率（各年代の女性の人口/その年代の出生数）を合計したもの

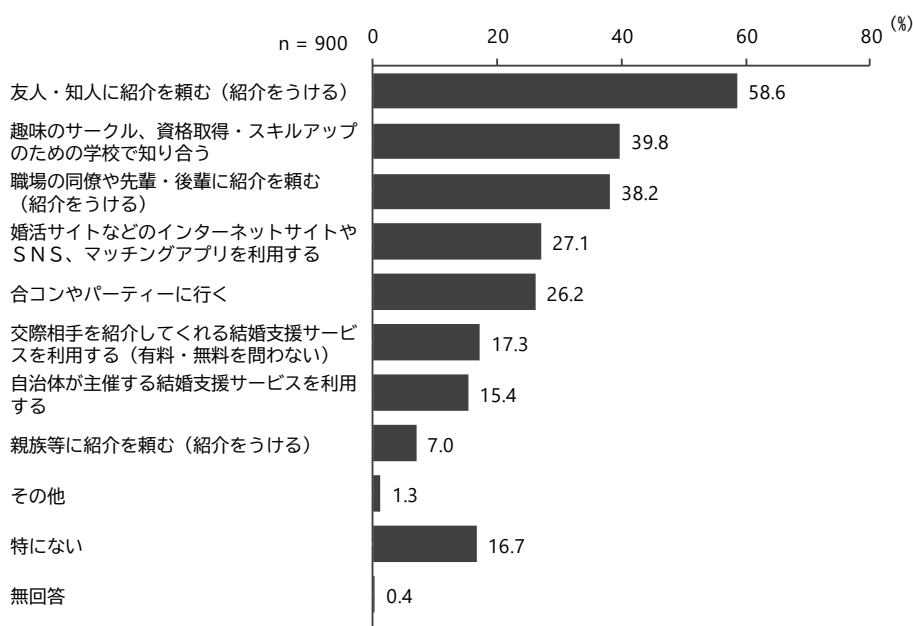
## 2 恋人との交際について

### 2-1 交際相手との出会いを求めるために必要な機会

問 10 交際相手との出会いを求めるとしたら、どんな機会があるとよいですか。

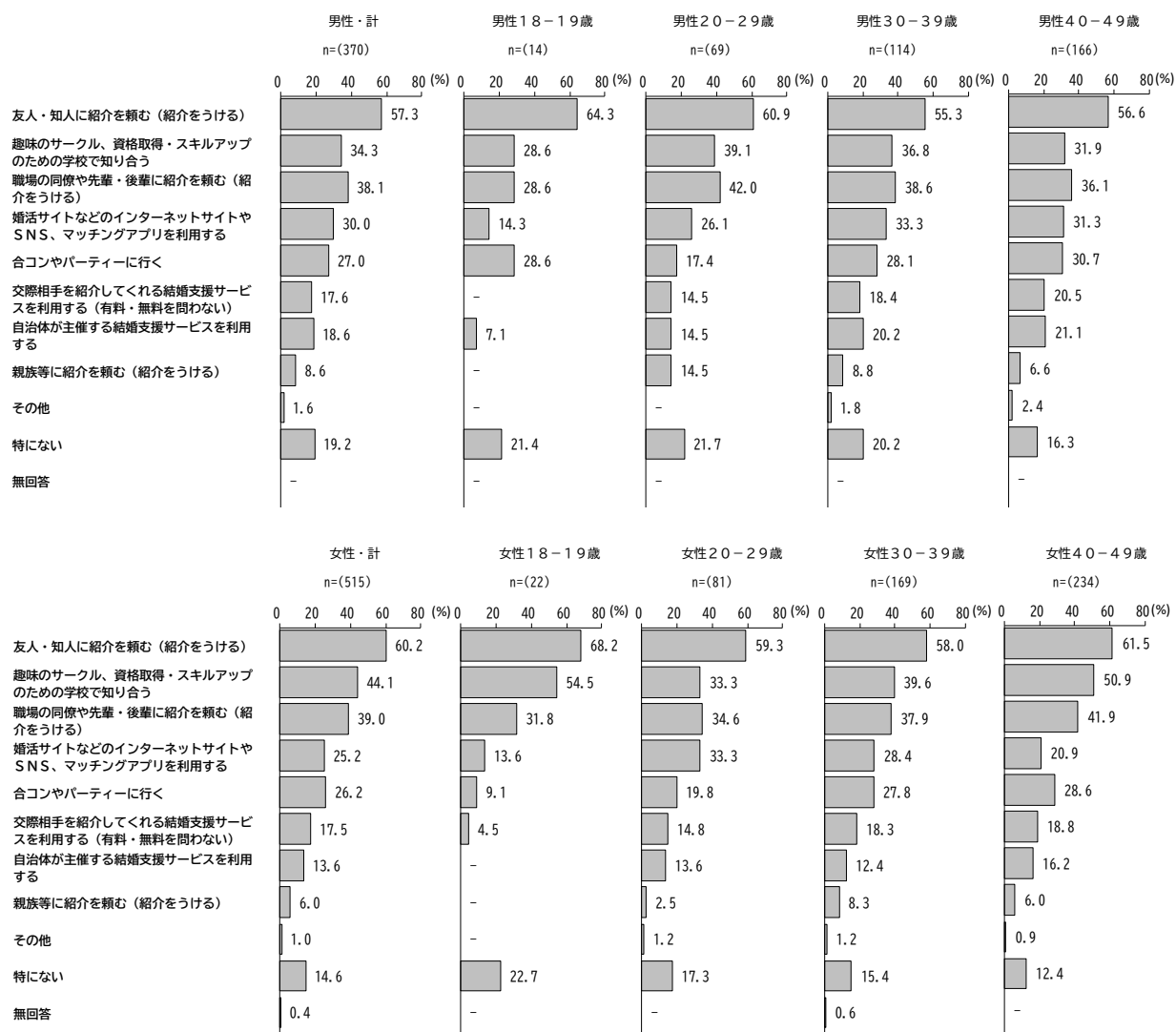
※現在配偶者等や交際相手のいる方は、いないと仮定してお答えください。

(○はいくつでも)



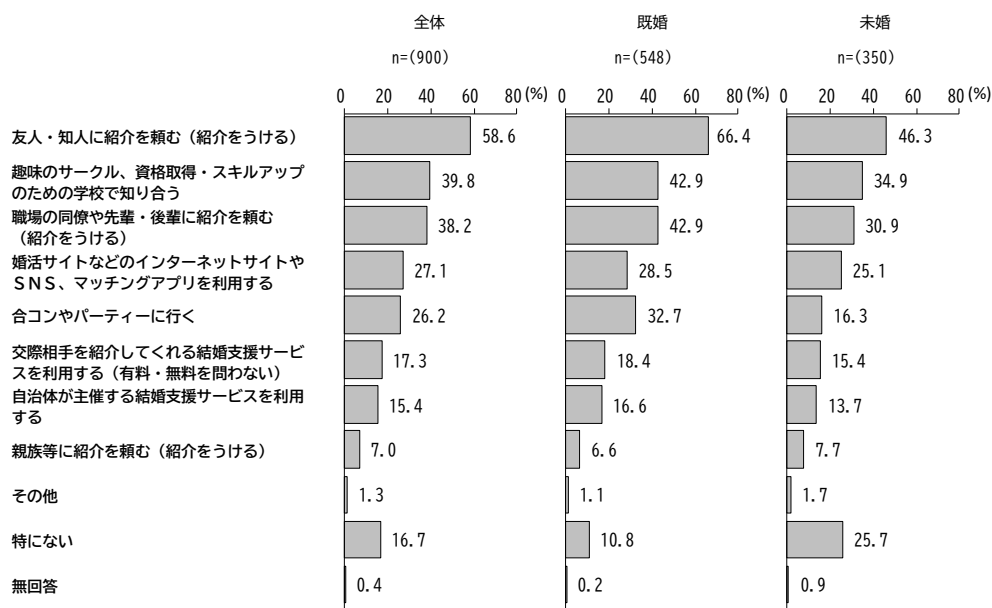
交際相手との出会いを求めるために必要な機会について、「友人・知人に紹介を頼む (紹介をうける)」が 58.6%と最も高く、次いで「趣味のサークル、資格取得・スキルアップのための学校で知り合う」(39.8%)、「職場の同僚や先輩・後輩に紹介を頼む (紹介をうける)」(38.2%)となっています。

## ◆性年代別／交際相手との出会いを求めるために必要な機会



性年代別にみると、女性では20-29歳を除く全ての年代で「趣味のサークル、資格取得・スキルアップのための学校で知り合う」が男性に比べて高く、特に、女性18-19歳で20ポイント以上、40-49歳で10ポイント以上同年代の男性より高くなっています。また、男女ともに概ね年代が高くなるほど「合コンやパーティーに行く」の回答割合が高くなっています。

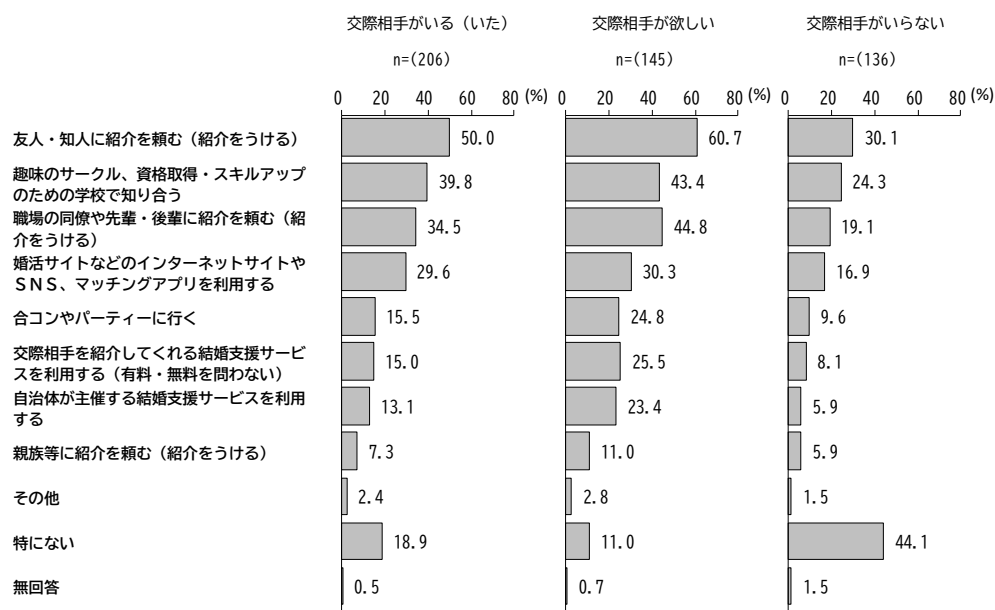
## ◆婚姻別／交際相手との出会いを求めるために必要な機会



婚姻別にみると、既婚者（現在は結婚していないが以前していた方を含む）では「親族等に紹介を頼む（紹介をうける）」を除いた項目で未婚者に比べ割合が高く、特に、「友人・知人に紹介を頼む（紹介を受ける）」が20.1ポイント、「合コンやパーティーに行く」が16.4ポイント、「職場の同僚や先輩・後輩に紹介を頼む（紹介をうける）」が12.0ポイント高くなっています。

一方、未婚者では既婚者と順位にそれほど違いはみられないものの全体的に割合が低く、「特にない」が14.9ポイント高くなっており、出会いの機会への期待値は低いことがうかがえます。

## ◆交際相手の有無別／交際相手との出会いを求めるために必要な機会

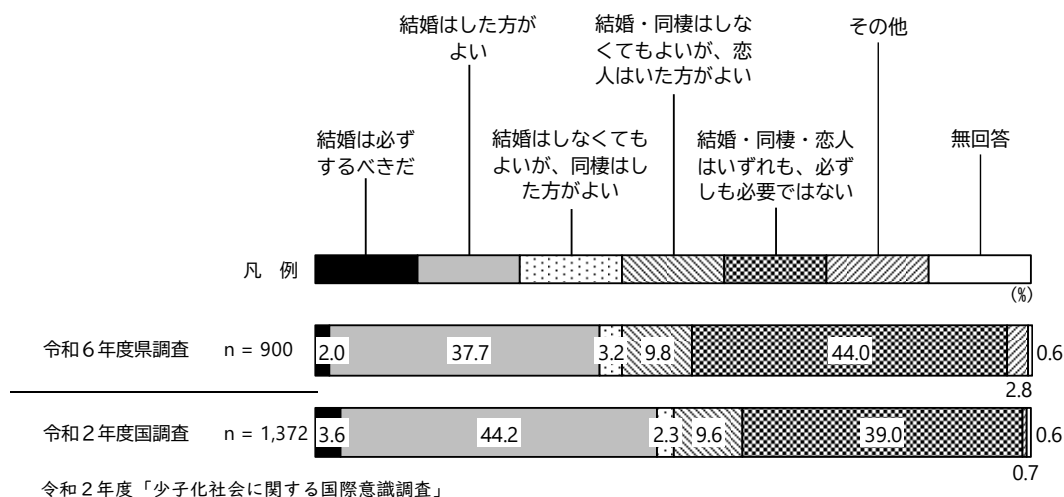


交際相手の有無別にみると、交際相手欲しい人では「友人・知人に紹介を頼む (紹介をうける)」「職場の同僚や先輩・後輩に紹介を頼む (紹介をうける)」、「交際相手を紹介してくれる結婚支援サービスを利用する (有料・無料を問わない)」、「自治体が主催する結婚支援サービスを利用する」が 交際相手がいる (いた) 人に比べ 10 ポイント以上高くなっています。一方、交際相手がいない人では全体的に回答割合が低く、「特になし」が 4 割を超えています。

### 3 結婚について

#### 3-1 結婚に対する考え方

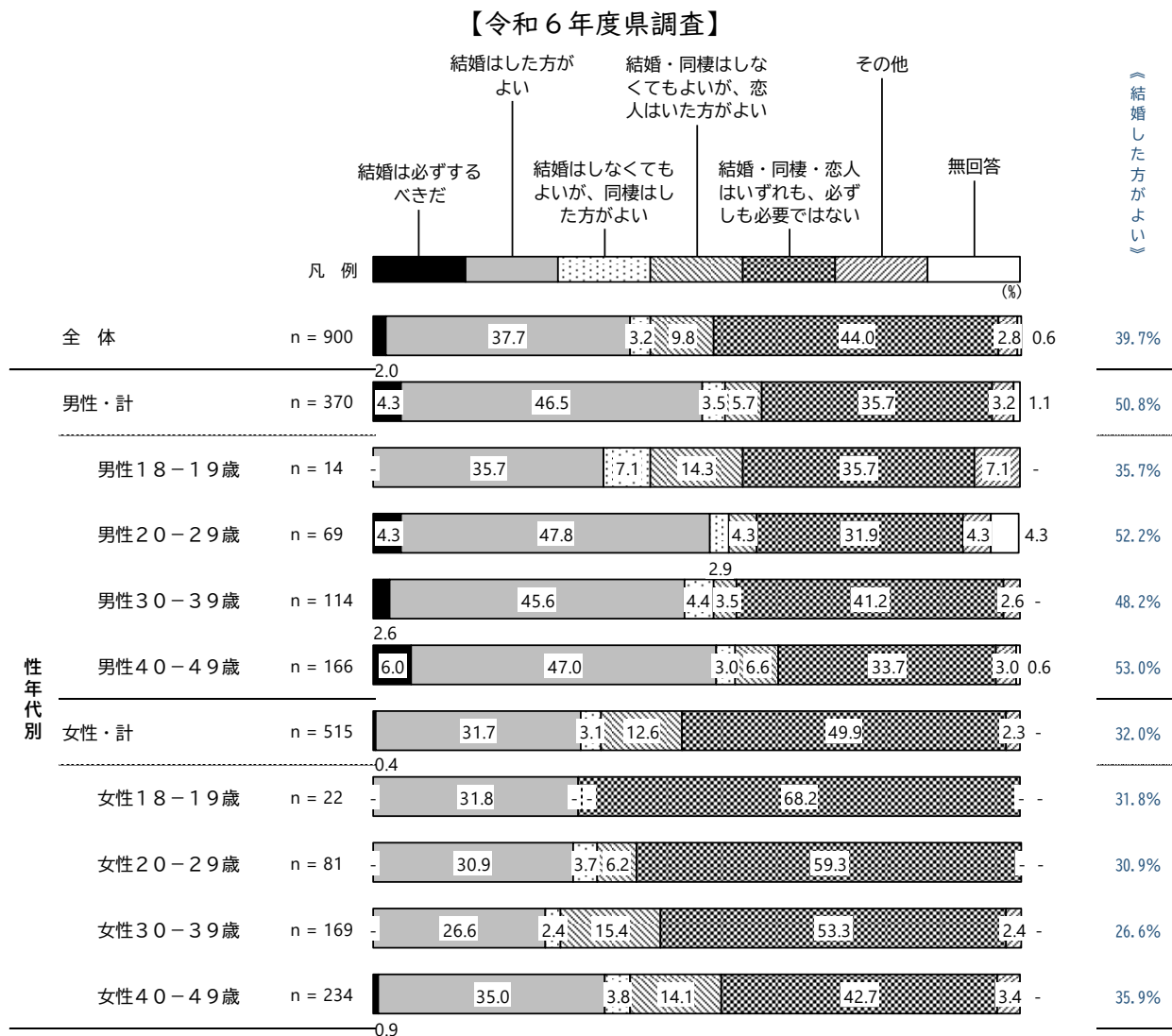
問 11 結婚についてあなたの考えに近いものを、以下から1つ選んでください。(〇は1つ)



結婚に対する考え方について、「結婚・同棲・恋人はいずれも、必ずしも必要ではない」が44.0%と最も高く、次いで「結婚はした方がよい」(37.7%)、「結婚・同棲はしなくてもよいが、恋人はいた方がよい」(9.8%)となっています。

令和2年度国調査と比較すると、「結婚・同棲・恋人はいずれも、必ずしも必要ではない」が5.0ポイント高くなっている一方、「結婚はした方がよい」は6.5ポイント低くなっており、結婚することへの意識が国調査と比べてやや薄くなっていることがうかがえます。

◆性年代別／結婚に対する考え方

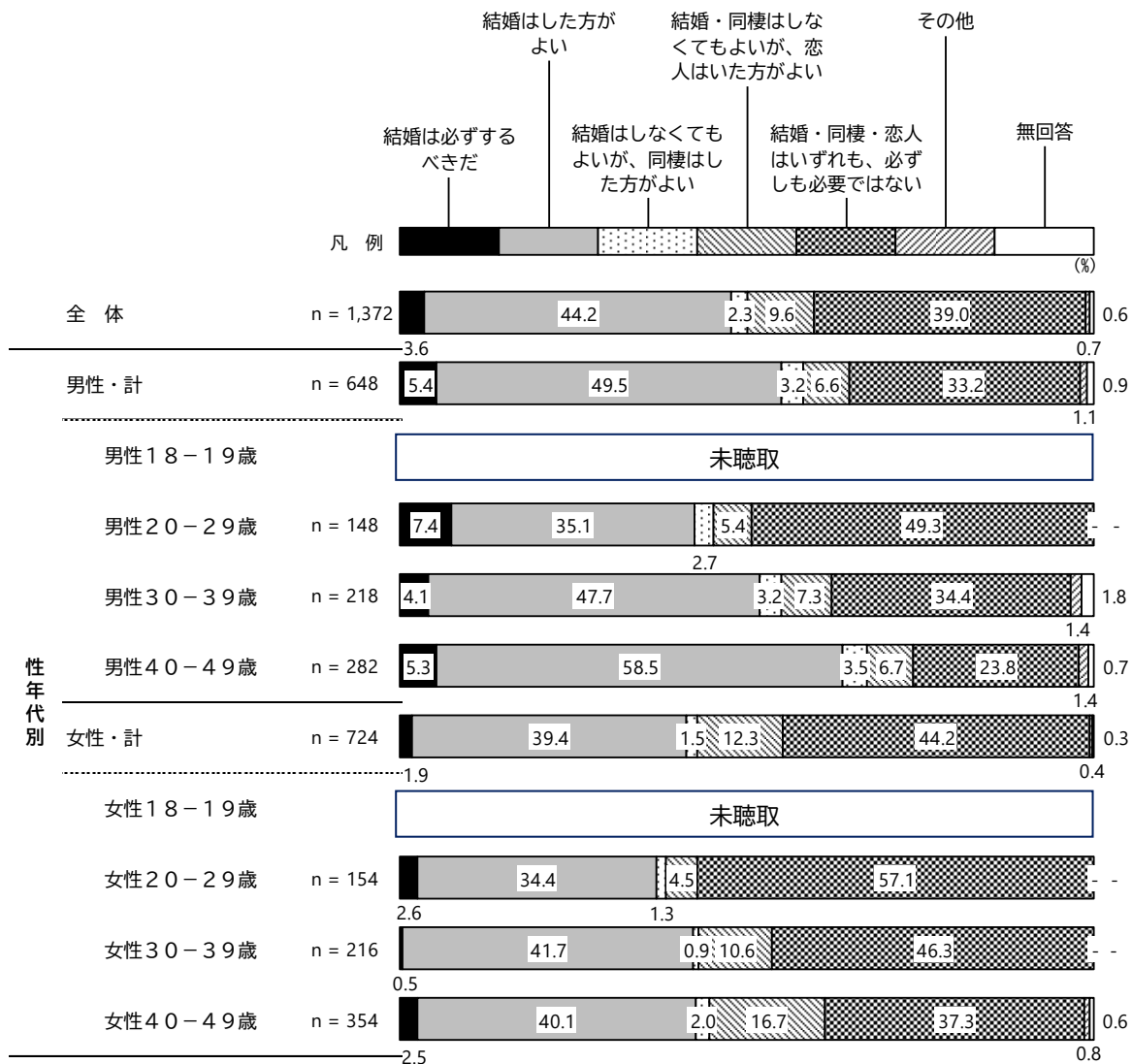


性年代別にみると、男性・計では「結婚した方がよい」が女性・計に比べ14.8ポイント高く、一方、女性・計では「結婚・同棲・恋人はいずれも、必ずしも必要ではない」が男性・計に比べ14.2ポイント高くなっており、全ての年代で概ね同様の傾向がみられ、女性の方が結婚に対する意識が低い傾向にあることがうかがえます。



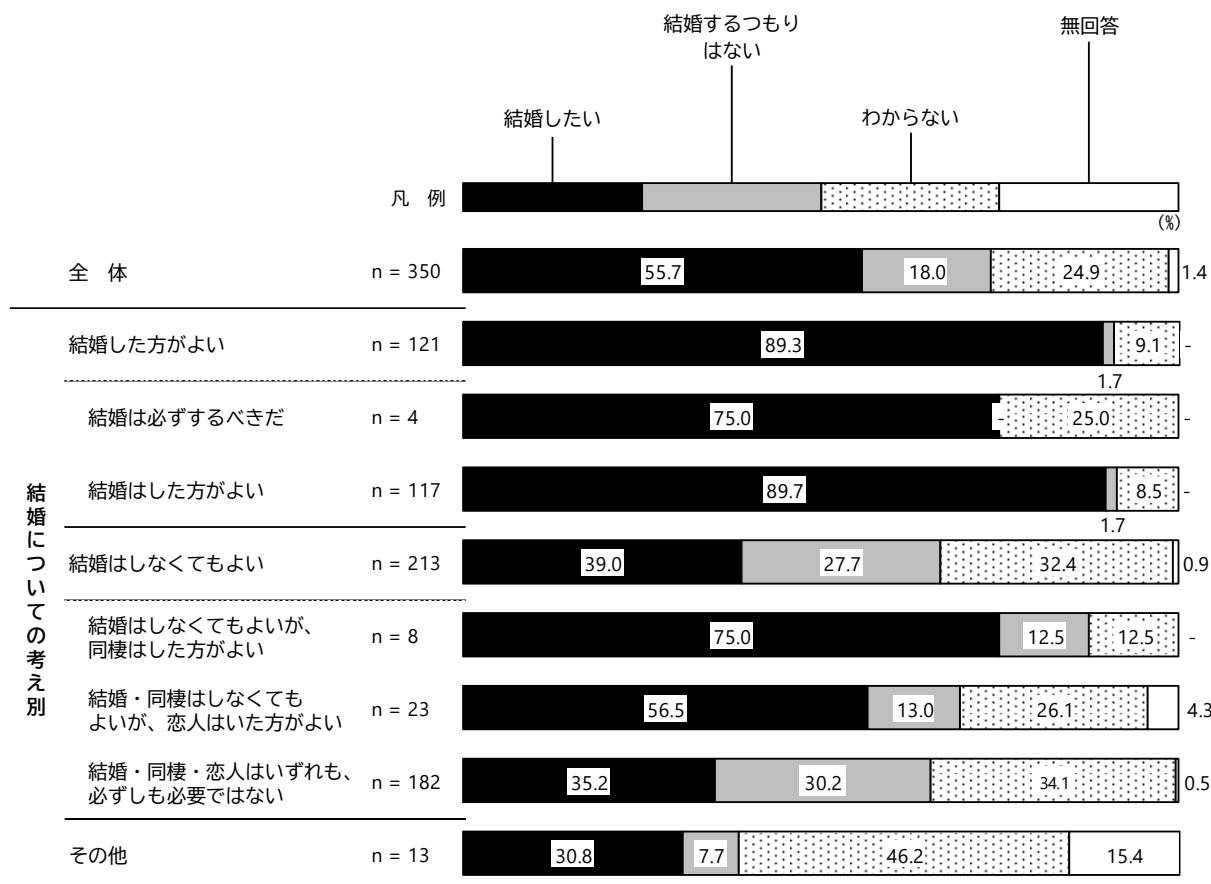
【令和2年度国調査】

令和2年度「少子化社会に関する国際意識調査」



性年代別の集計結果について令和2年度国調査と比較すると、宮城県では男性 20-29 歳で「結婚はした方がよい」が国調査に比べ 12.7 ポイント高くなっている一方、それ以外の性年代では国調査に比べ「結婚はした方がよい」が低く、特に、女性 30-39 歳で 15.1 ポイント、男性 40-49 歳で 11.5 ポイント低くなっており、女性の結婚に対する意識が低い傾向にあることがうかがえます。

## ◆結婚に対する考え方別／未婚者の希望する結婚の時期

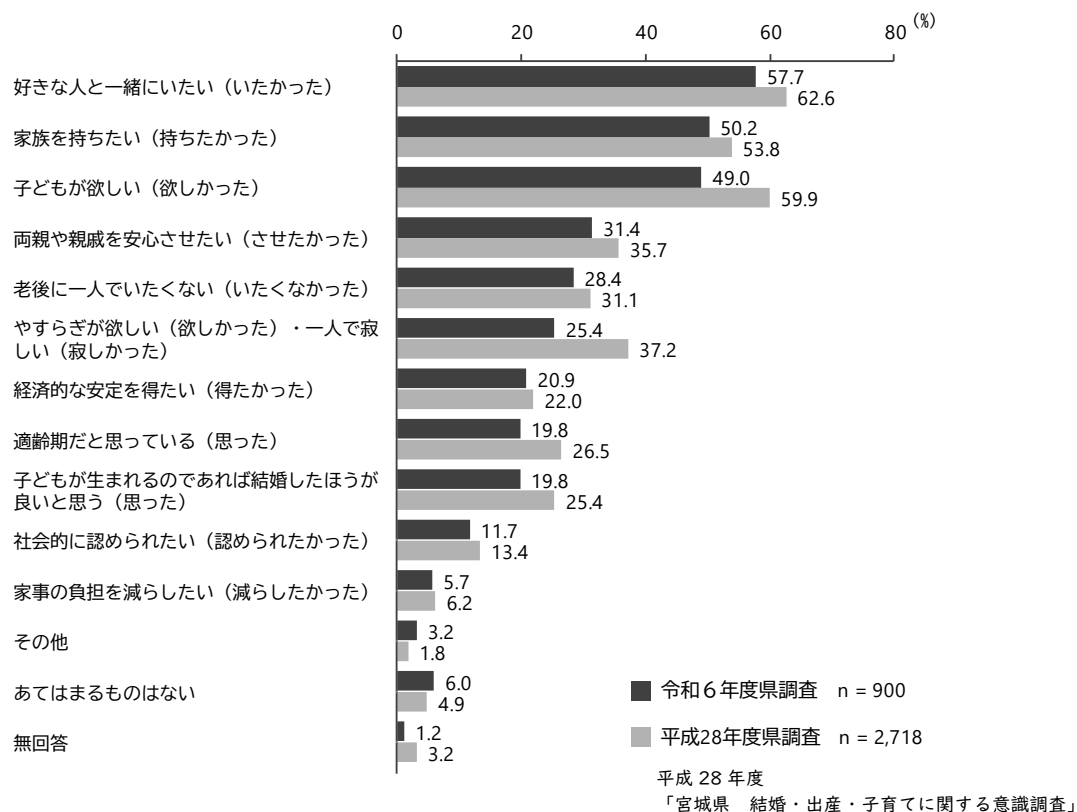


未婚の方の結婚の希望について、結婚に対する考え方にみると、『結婚はした方がよい』人では「結婚したい」（「1年以内に結婚したい」＋「2～3年以内に結婚したい」＋「いずれは結婚したい」の合計）が約9割と高い割合になっています。一方、『結婚・同棲・恋人はいずれも、必ずしも必要ではない』人は同割合が35.2%と4割未満となっており、その一方で「結婚するつもりはない」は30.2%と、『結婚はした方がよい』人の同割合（1.7%）に比べ大幅に高くなっています。

『結婚はしなくてもよい』（『結婚はしなくてもよいが、同棲はした方がよい』＋『結婚・同棲はしなくてもよいが、恋人はいた方がよい』＋『結婚・同棲・恋人はいずれも、必ずしも必要ではない』の合計）と考えている人では、同時に「結婚するつもりはない」と回答する人も27.7%見受けられる一方、「結婚したい」と考えている人も39.0%いることがわかります。

## 3-2 結婚したい（した）理由

問 12 結婚の理由について伺います。現在未婚の方は、今後結婚したいと思う理由を、また現在結婚している方（これまで結婚の経験がある方）は、当時結婚した理由を教えてください。（〇はいくつでも）  
 ※結婚するつもりがない方は、結婚すると仮定してお答えください。



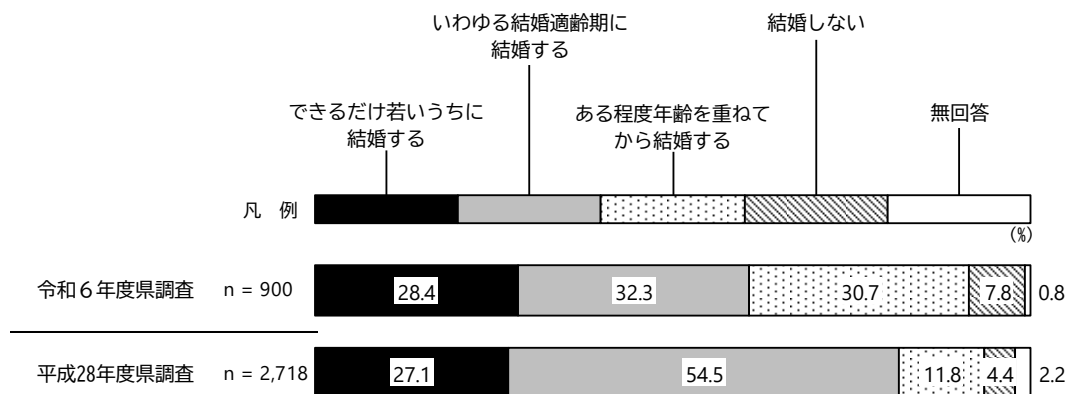
結婚したい（した）理由（複数回答可）について、「好きな人と一緒にいたい（いたかった）」が57.7%と最も高く、次いで「家族を持ちたい（持ちたかった）」(50.2%)、「子どもが欲しい（欲しかった）」(49.0%)となっています。

平成28年度県調査と比較すると、「やすらぎが欲しい（欲しかった）・一人で寂しい（寂しかった）」が11.8ポイント、「子どもが欲しい（欲しかった）」が10.9ポイント低くなっています。子どもが欲しくて結婚したいと思う方の減少、他人と一緒にいることを希望する方の減少から個人の時間の確保や子育てに係る経済的負担が原因で他の項目に比べ減少幅が大きいと考えられます。

## 3-3 理想の結婚時期

問 13 あなたが理想とする結婚の時期について伺います。実際どうであるかは別として、あなたにとってこうしたい（こうしたかった）というものをお選びください。

(○は1つ)

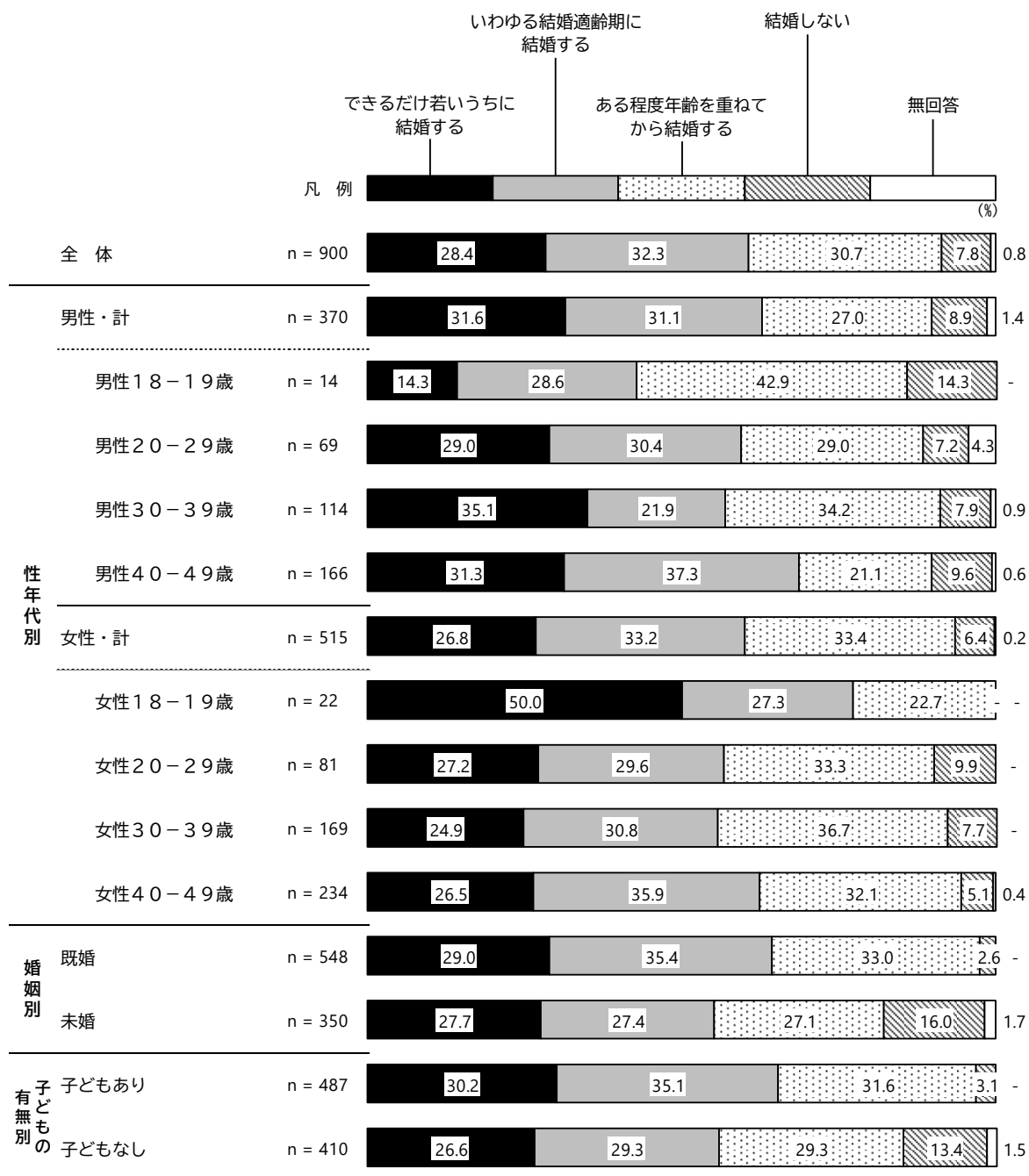


平成28年度「宮城県 結婚・出産・子育てに関する意識調査」

理想の結婚時期について、「いわゆる結婚適齢期に結婚する」が32.3%と最も高く、次いで「ある程度年齢を重ねてから結婚する」(30.7%)、「できるだけ若いうちに結婚する」(28.4%)となっています。

平成28年度県調査と比較すると、「ある程度年齢を重ねてから結婚する」が18.9ポイントと大幅に高くなっている一方、「いわゆる結婚適齢期に結婚する」は22.2ポイント低くなっています。

◆性年代別・婚姻別・子どもの有無別／理想の結婚時期



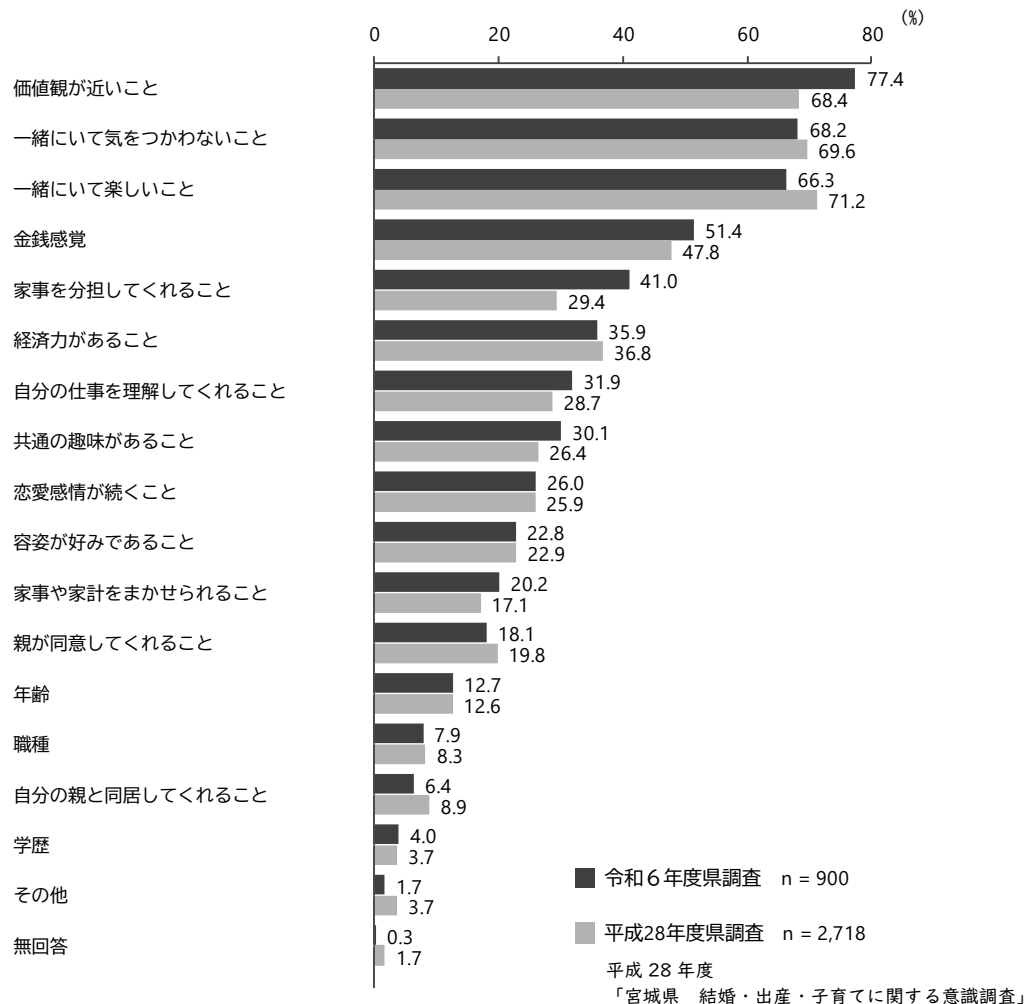
性年代別にみると、男性・計では「できるだけ若いうちに結婚する」が女性・計に比べ4.8ポイント高く、一方女性・計では「ある程度年齢を重ねてから結婚する」が男性・計に比べ6.4ポイント高くなっており、主に女性で「ある程度年齢を重ねてから結婚する」への回答が多くなっています。

婚姻別にみると、未婚者では「結婚しない」が既婚者に比べ13.4ポイント高くなっています。

子どもの有無別にみると、子どもなしの人では「結婚しない」が子どもありの人に比べ10.3ポイント高くなっています。

## 3-4 結婚相手に望むこと

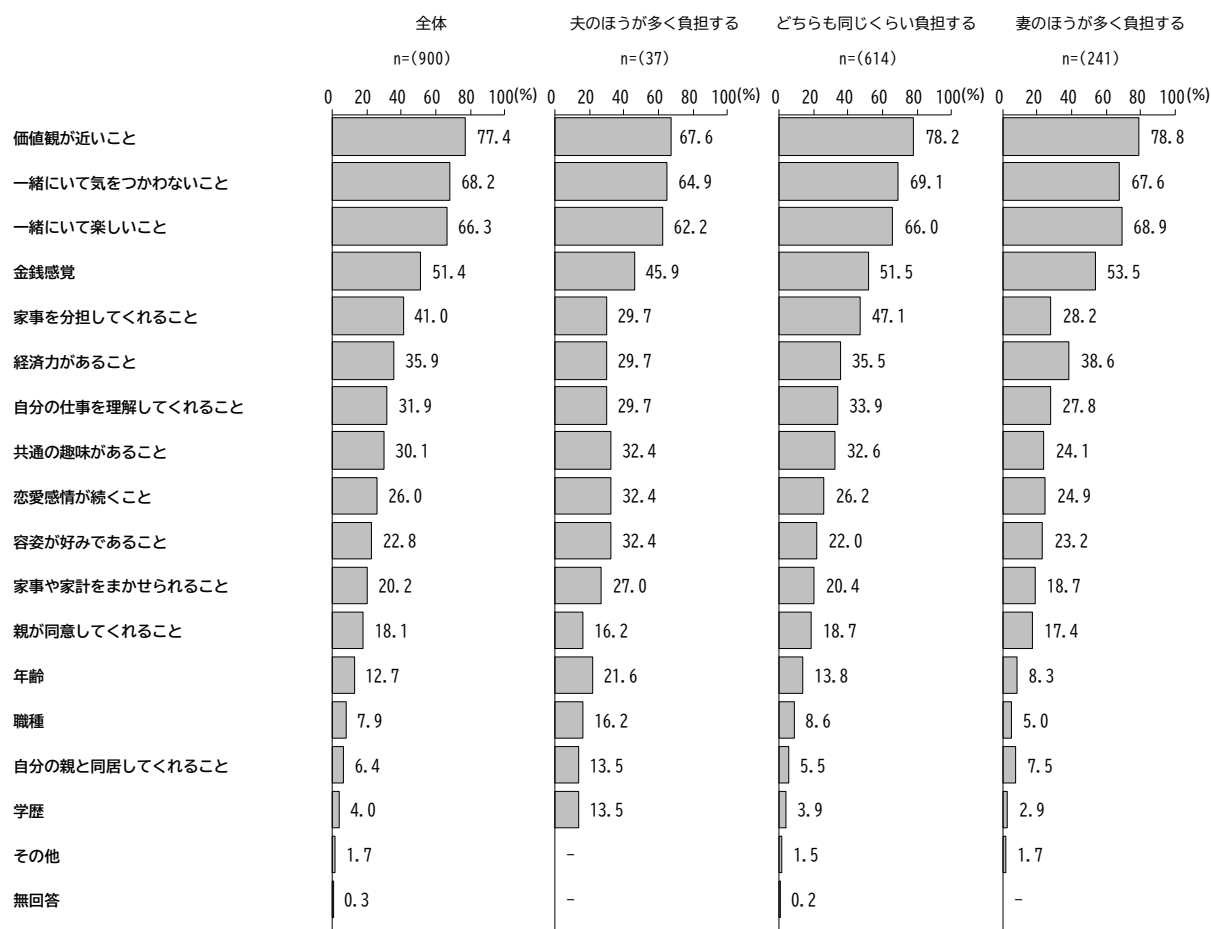
問 15 結婚相手に望むことは何ですか（何でしたか）。（〇はいくつでも）  
 ※結婚するつもりがない方は、結婚すると仮定してお答えください。



結婚相手に望むことについて、「価値観が近いこと」が77.4%と最も高く、次いで「一緒にいて気をつかわないこと」（68.2%）、「一緒にいて楽しいこと」（66.3%）となっています。

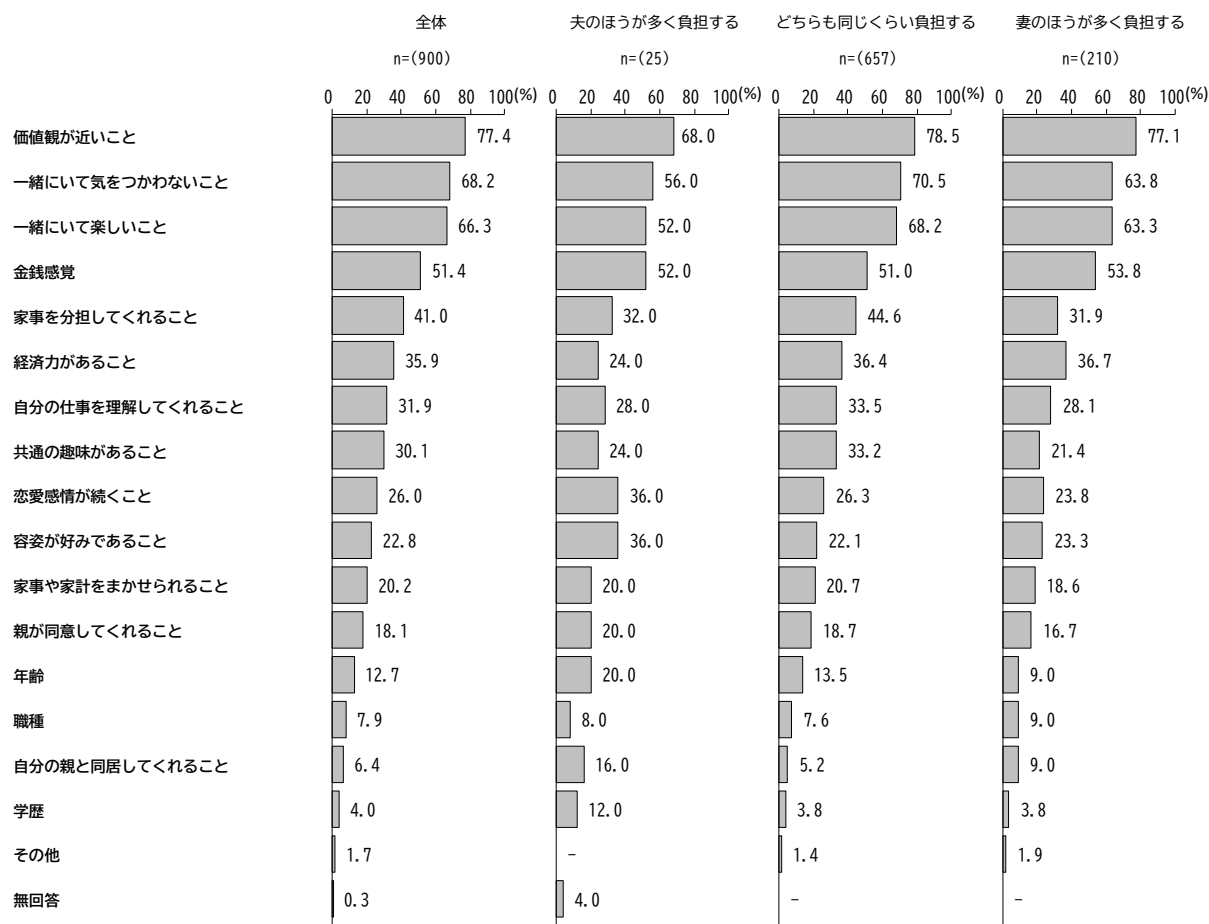
平成28年度県調査と比較すると、「価値観が近いこと」が9.0ポイント、「家事を分担してくれること」が11.6ポイント高くなっており、後述の問17、18夫婦間の家事・育児負担においても、家事・育児を夫婦で同じくらい負担したいとの回答が高くなっており、そうした状況が本結果に反映されたものと考えられます。

## ◆夫婦間の家事負担別／結婚相手に望むこと



夫婦の家事負担別にみると、『どちらも同じくらい負担する』人では「家事を分担してくれること」が『夫の方が多く負担する』人と『妻のほうが多く負担する』人に比べ約17~19ポイント高くなっています。

## ◆夫婦間の育児負担別／結婚相手に望むこと



夫婦の育児負担別にみると、『どちらも同じくらい負担する』人では「家事を分担してくれること」が『夫の方が多く負担する』人と『妻のほうが多く負担する』人に比べ約13ポイント高くなっています。



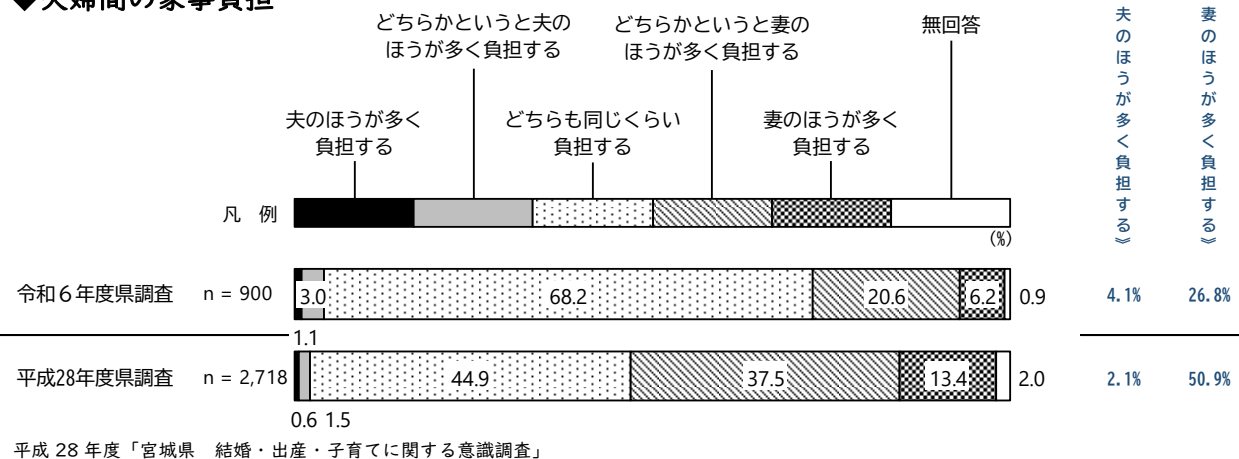
## 3-5 夫婦間の家事・育児負担

問 17 あなたは、夫婦の間で家事の負担はどのようにしたいと思っていますか。

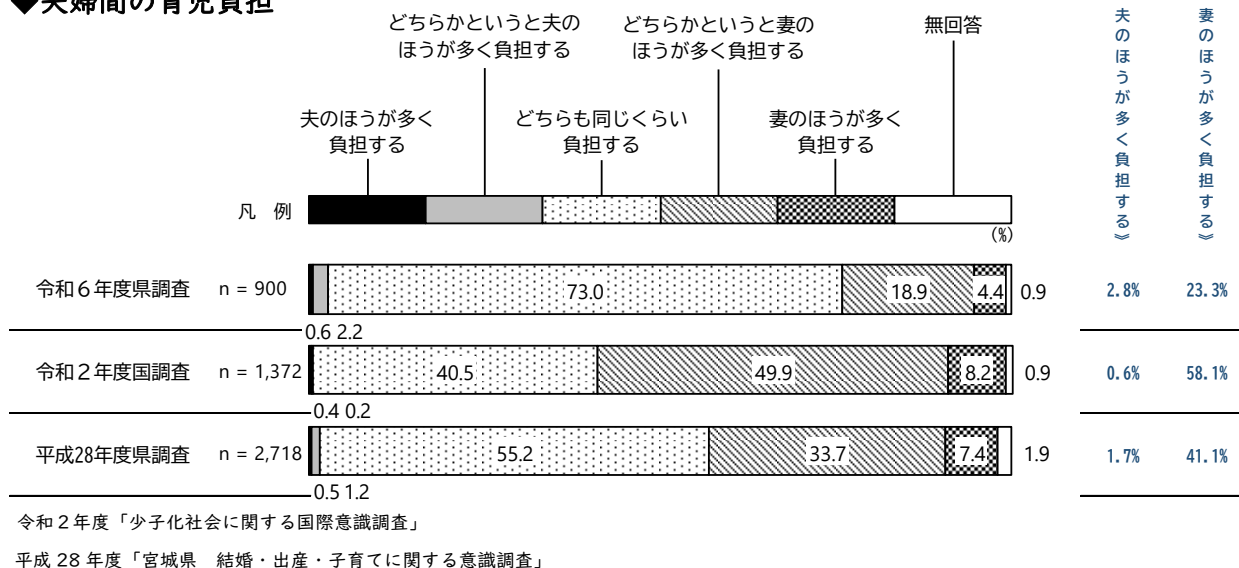
問 18 あなたは、夫婦の間で育児の負担はどのようにしたいと思っていますか。

※配偶者等がない方は、いると仮定してお答えください。(〇は1つ)

## ◆夫婦間の家事負担



## ◆夫婦間の育児負担

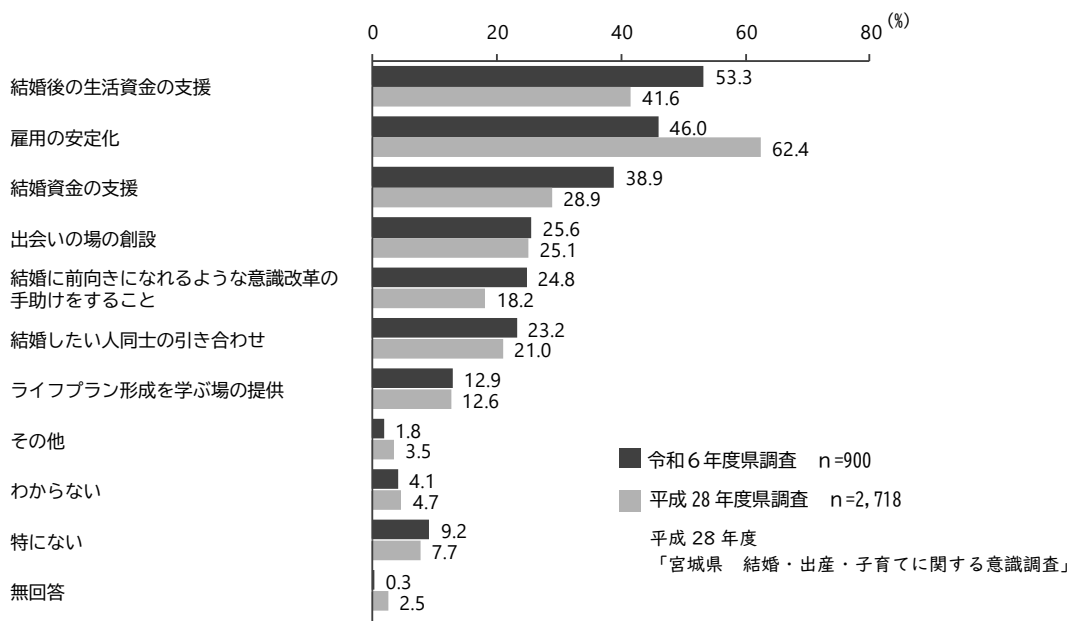


夫婦間の家事・育児負担について、家事・育児ともに「どちらも同じくらい負担する」が最も高く、次いで「どちらかというと妻のほうが多く負担する」となっており、この2項目で約9割を占めています。《妻のほうが多く負担する》(「妻のほうが多く負担する」+「どちらかというと妻のほうが多く負担する」の合計)が2割台であるのに対し、《夫のほうが多く負担する》(「夫のほうが多く負担する」+「どちらかというと夫のほうが多く負担する」の合計)は1割未満にとどまっています。

平成28年度県調査と比較すると、《妻のほうが多く負担する》は家事で24.1ポイント、育児で17.8ポイント低くなっている一方、「どちらも同じくらい負担する」が同程度高くなっています。育児負担について令和2年度国調査と比較すると、《妻のほうが多く負担する》は34.8ポイント低くなっている一方、「どちらも同じくらい負担する」が同程度高くなっています。

### 3-6 結婚に関して行政に実施してほしい取組

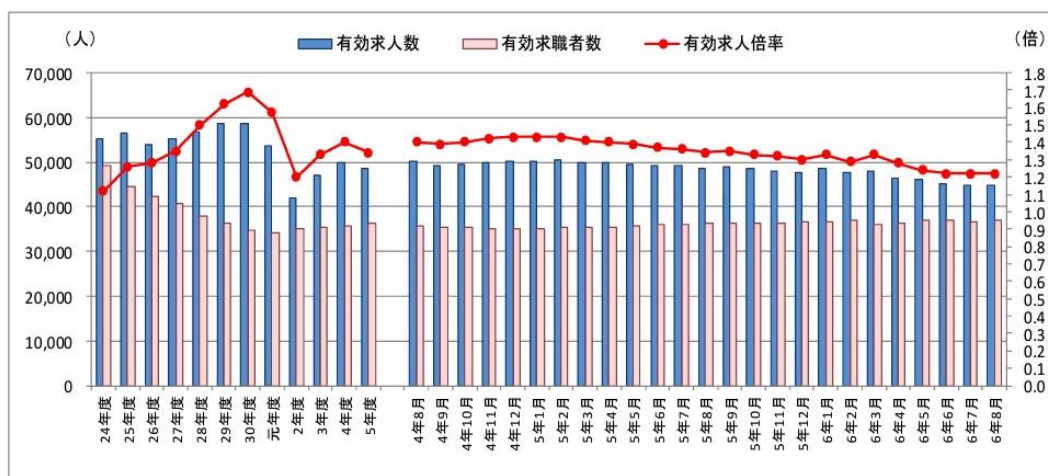
問 19 結婚に関して、行政に実施してほしい取組は何ですか。(〇はいくつでも)



結婚に関して行政に実施してほしい取組について、「結婚後の生活資金の支援」が 53.3%と最も高く、次いで「雇用の安定化」(46.0%)、「結婚資金の支援」(38.9%)となっています。

平成 28 年度県調査と比較すると、「結婚後の生活資金の支援」が 11.7 ポイント、「結婚資金の支援」が 10.0 ポイント高くなっています。一方、「雇用の安定化」は 16.4 ポイント低くなっています。

(参考) 宮城県内の有効求人倍率等 (季節調整値) (宮城労働局)

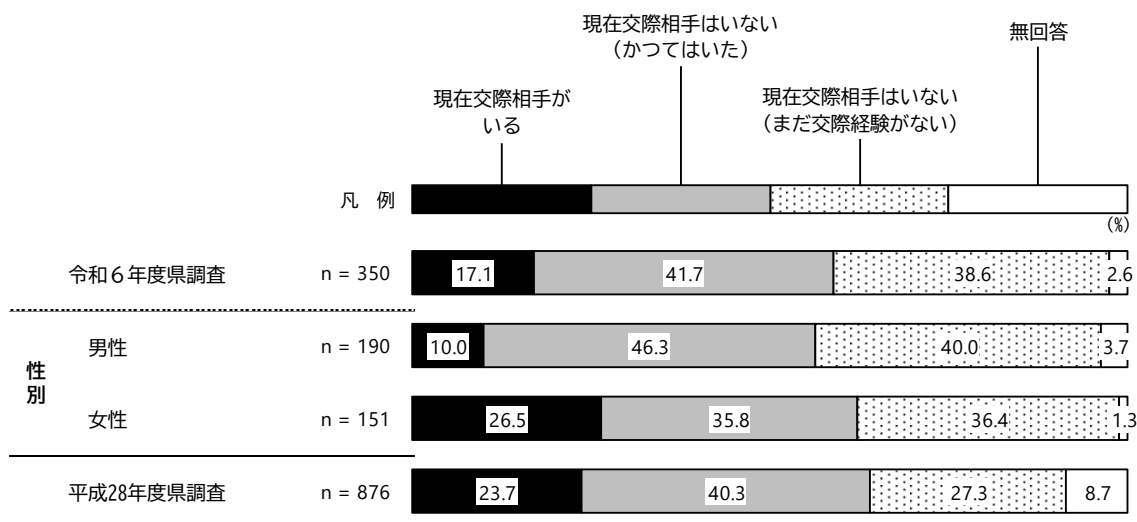


(注) 1 月別の数値は季節調整値である。なお、令和 5 年 12 月以前の数値は、令和 6 年 1 月分公表時に新季節指数により改訂されている。  
 2 ハローワークインターネットサービスの機能拡充に伴い、令和 3 年 9 月以降の数値には、ハローワークに来所せず、オンライン上で求職登録した求職者数や、求職者がハローワークインターネットサービスの求人に直接応募した就職件数等が含まれている。

## 3-7 交際相手の有無

【問 20～24 は、未婚の方（問 5 で「今まで結婚したことはない（未婚）」とお答えの方にお伺いします。】

問 20 交際相手の有無についておたずねします。次のうち、あなたに当てはまるものを選びください。（○は1つ）



平成28年度「宮城県 結婚・出産・子育てに関する意識調査」

交際相手の有無について、「現在交際相手はいない（かつてはいた）」が41.7%と最も高く、次いで「現在交際相手はいない（まだ交際経験がない）」（38.6%）、「現在交際相手がいる」（17.1%）となっています。

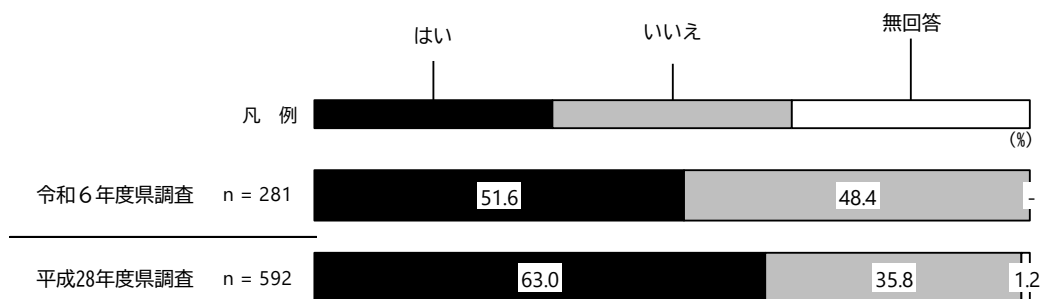
性別にみると、女性では「現在交際相手がいる」が26.5%と男性に比べ16.5ポイント高くなっている一方、男性では「現在交際相手はいない（かつてはいた）」が46.3%と女性に比べ10.5ポイント高くなっています。また、「現在交際相手はいない（まだ交際経験がない）」は男女ともに約4割となっています。

平成28年度県調査と比較すると、「現在交際相手はいない（まだ交際経験がない）」が11.3ポイント高くなっています。

## 3-8 交際相手は欲しいか

【問 20 で「現在交際相手はいない（かつてはいた／まだ交際経験がない）」とお答えの方にお伺いします】

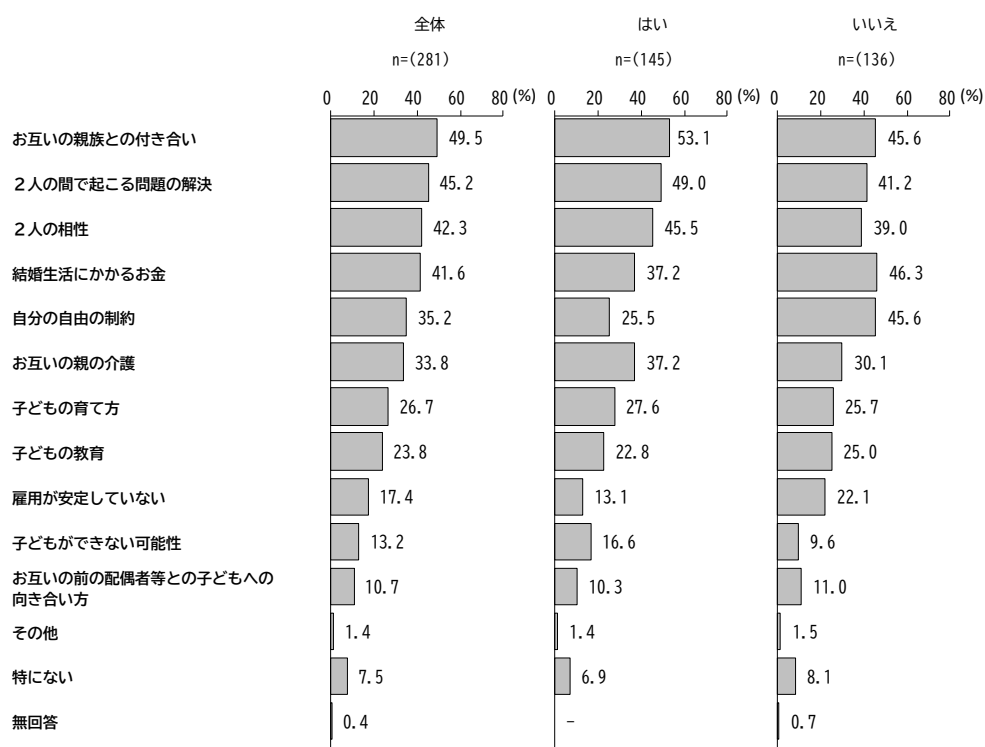
問 21 あなたは今、交際相手が欲しいですか。（○は1つ）



平成 28 年度「宮城県 結婚・出産・子育てに関する意識調査」

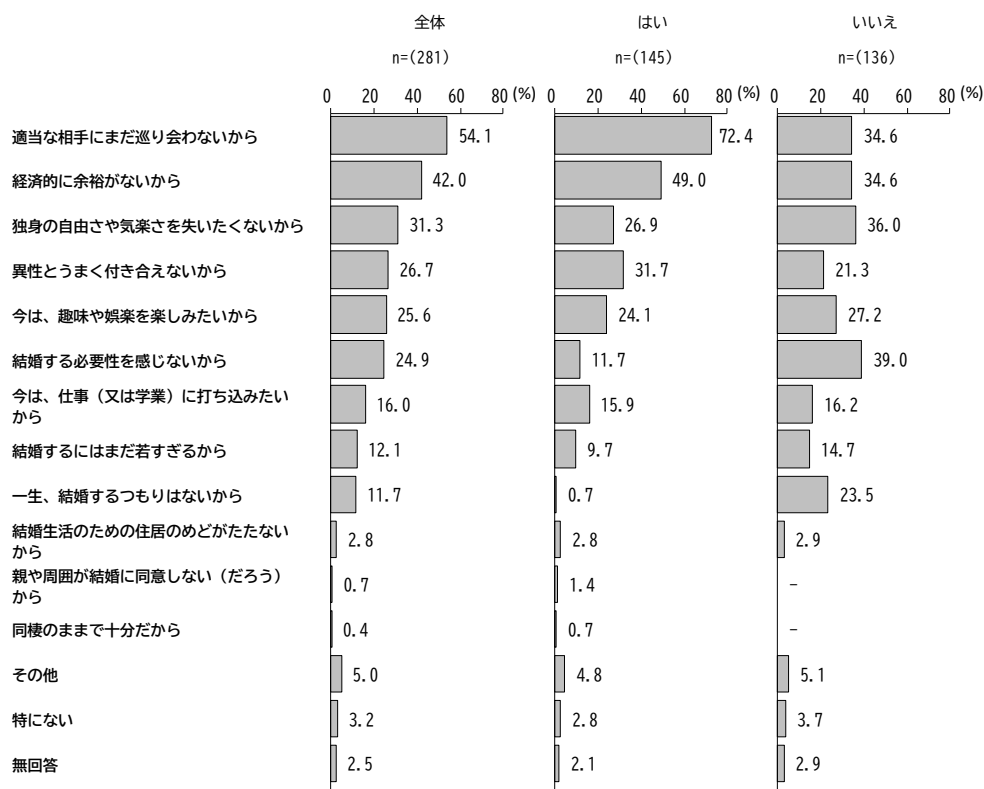
交際相手は欲しいかについて、「はい」が51.6%、「いいえ」が48.4%となっています。平成 28 年度県調査と比較すると、「いいえ」が12.6ポイント高くなっています。

## ◆交際相手は欲しいか別／結婚生活について不安に感じること



交際相手は欲しいか別に結婚生活について不安に感じることをみると、『交際相手が欲しくない』（「いいえ」と回答）人は「自分の自由の制約」が『交際相手が欲しい』（「はい」と回答）人に比べ 20.1 ポイント高くなっており、自由の制約に対する嫌悪感がうかがえます。

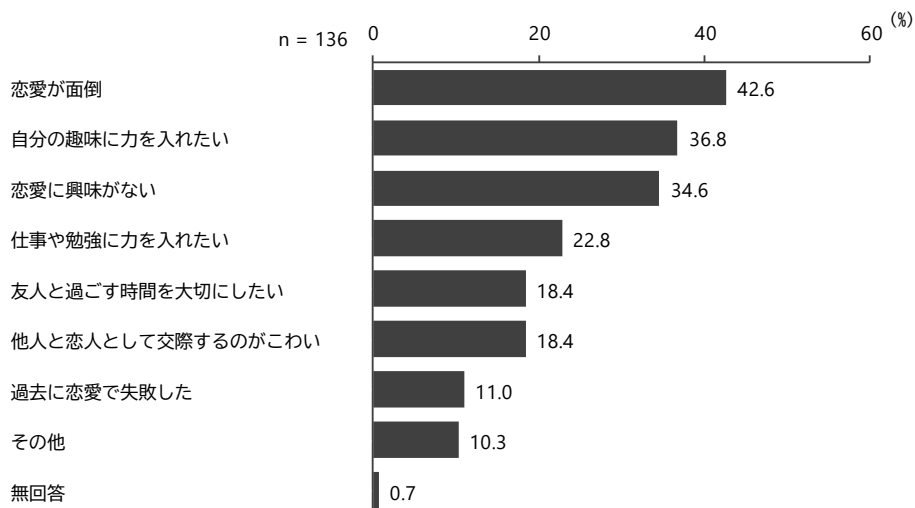
## ◆交際相手は欲しいか別／結婚していない理由



交際相手は欲しいか別に結婚していない理由みると、『交際相手が欲しくない』（「いいえ」と回答）人は「結婚する必要性を感じないから」が『交際相手が欲しい』（「はい」と回答）人に比べ27.3ポイント、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が9.1ポイント高くなっており、結婚への興味が希薄であることや自由の制約に対する嫌悪感がうかがえます。

## 3-9 交際相手が欲しくない理由

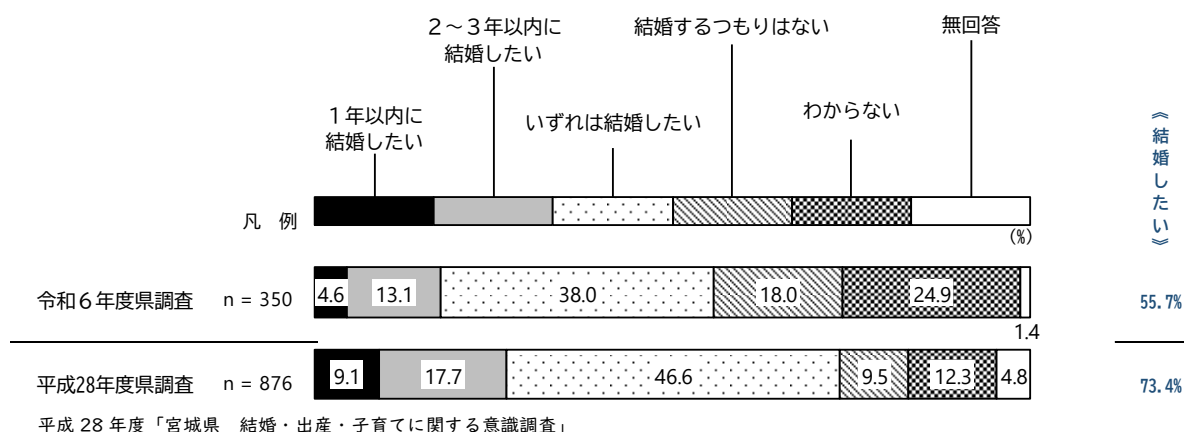
【問 21 で「いいえ（今、交際相手が欲しくない）」とお答えの方にお伺いします】  
問 22 交際相手が欲しいと思わない理由を教えてください。（〇はいくつでも）



交際相手が欲しくない理由について、「恋愛が面倒」が 42.6%と最も高く、次いで「自分の趣味に力を入れたい」(36.8%)、「恋愛に興味がない」(34.6%)となっています。

## 3-10 結婚の時期

問 23 あなたは、あなたご自身の結婚の時期について、どのように考えていますか。最もよく当てはまるものをお選びください。（〇は1つ）

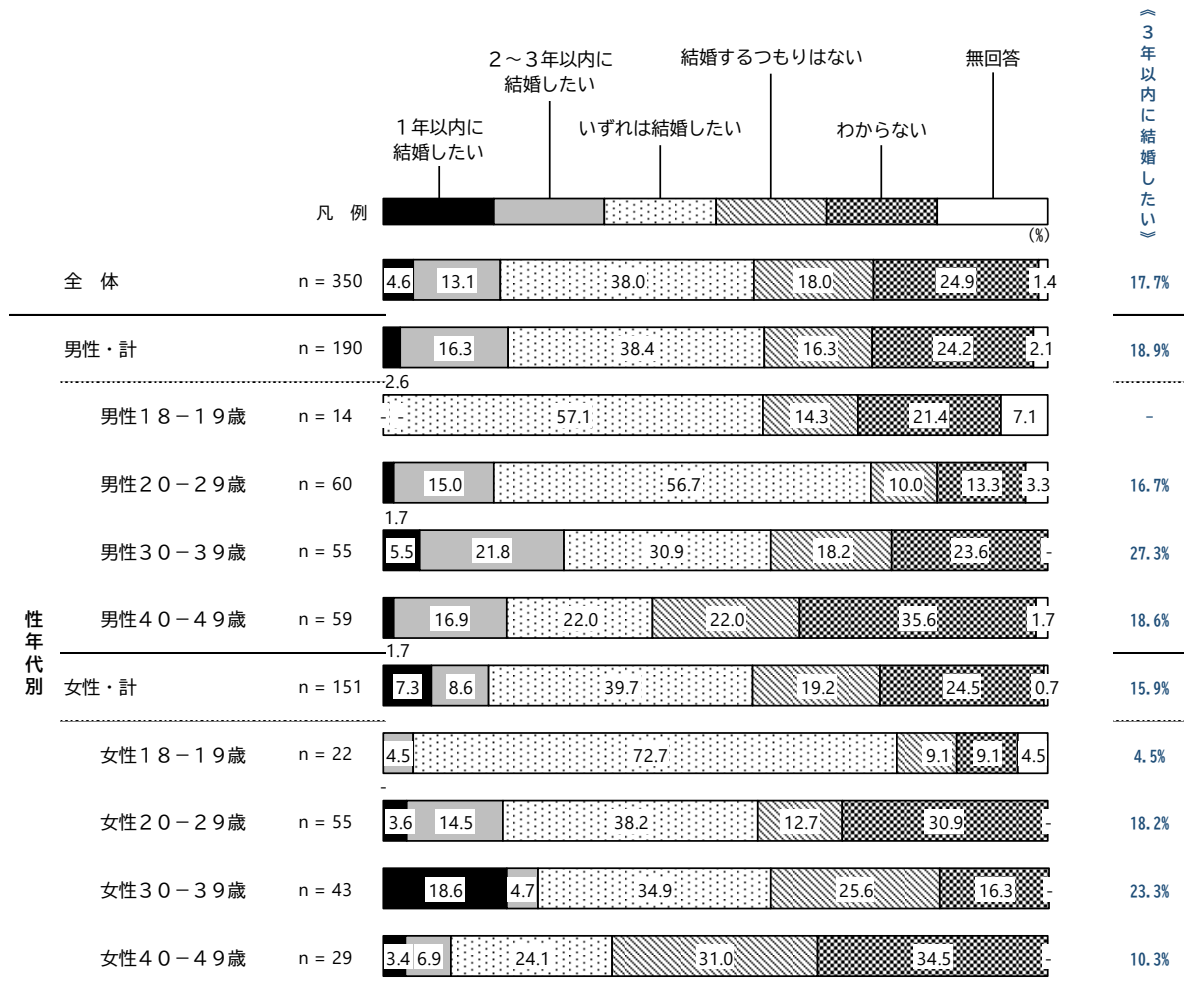


結婚の時期について、「いずれは結婚したい」が 38.0%と最も高く、次いで「結婚するつもりはない」(18.0%)、「2～3年以内に結婚したい」(13.1%)となっています。また、「わからない」との回答も 24.9%みられます。

平成28年度県調査と比較すると、《結婚したい》（「1年以内に結婚したい」+「2～3年以内に結婚したい」+「いずれは結婚したい」の合計）が 17.7ポイント低くなっています。

◆性年代別／結婚の時期

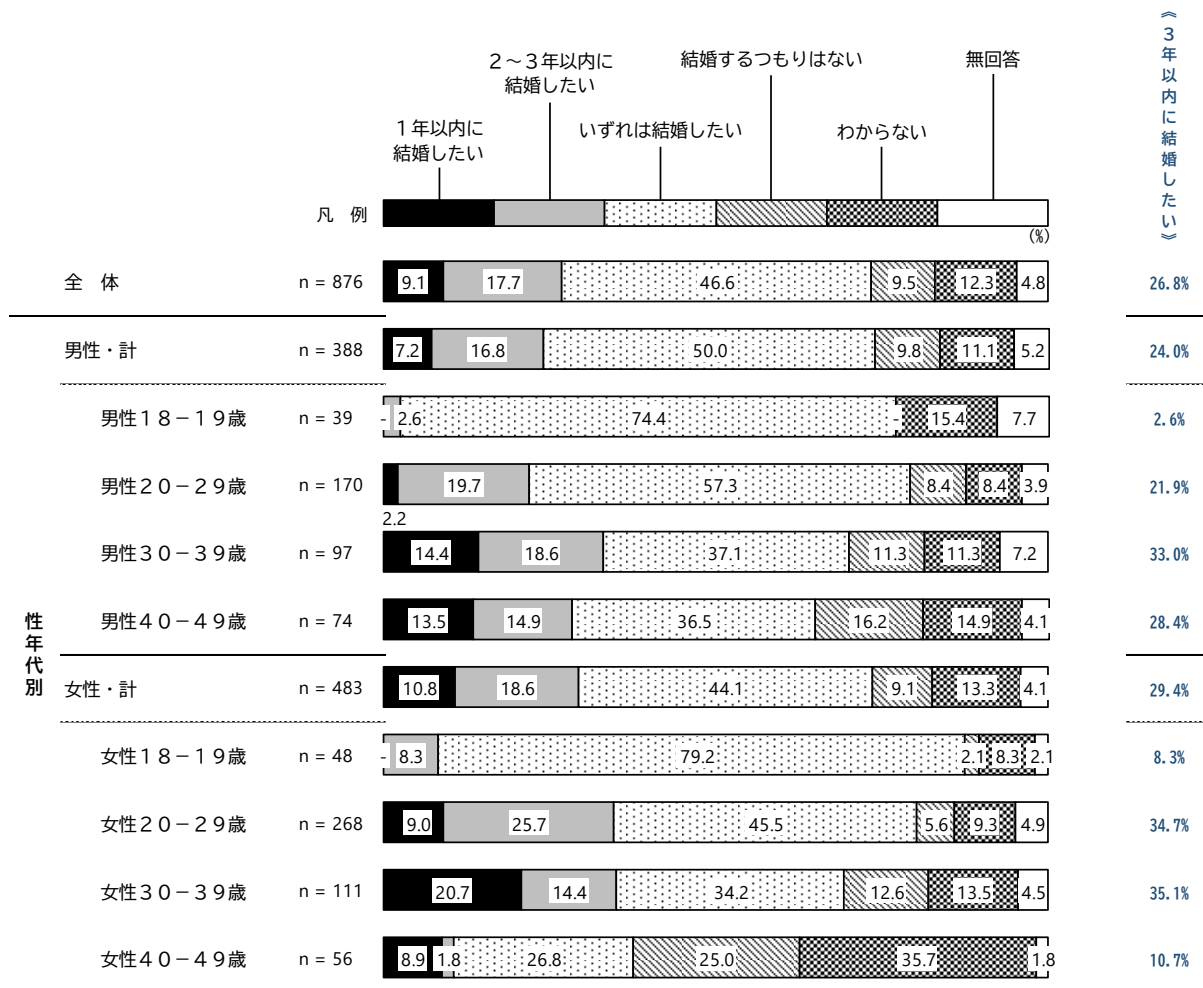
【令和6年度県調査】





【平成 28 年度県調査】

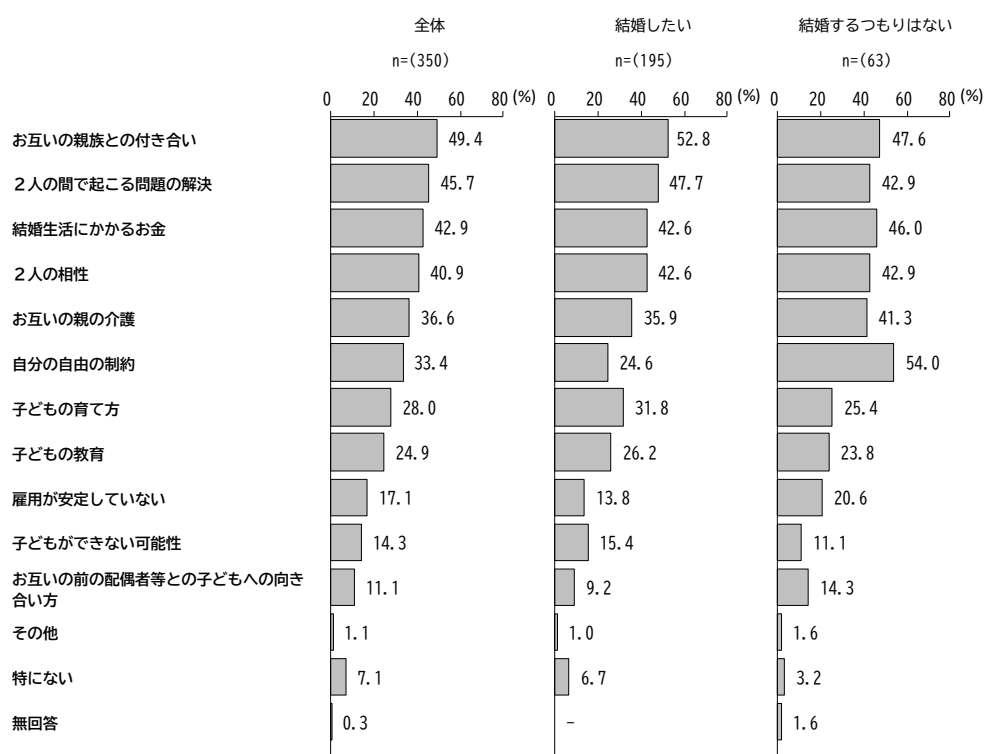
平成 28 年度「宮城県 結婚・出産・子育てに関する意識調査」



性年代別にみると、《3年以内に結婚したい》（「1年以内に結婚したい」＋「2～3年以内に結婚したい」の合計）では男女ともに30-39歳で回答割合が最も高くなっています。

平成28年度県調査と比較すると、男性30-39歳、40-49歳では「1年以内に結婚したい」が1割以下になって、「わからない」は10ポイント以上高くなっています。女性20-29歳では《3年以内に結婚したい》が10ポイント以上低くなって、「わからない」が20ポイント以上高くなっています。女性30-39歳では「結婚するつもりはない」が10ポイント以上高くなっています。《3年以内に結婚したい》では男女ともに全ての年代で回答割合が低くなっており、特に、女性20-29歳で16.5ポイント、女性30-39歳で11.8ポイント低くなっています。女性40-49歳を除くいずれの性年代でも、「わからない」の回答が高くなっており、結婚願望の希薄化と具体的なライフプランを持たない人が多くなってきたと考えられます。結婚、出産、子育てといったライフプランの形成は資産形成にもかかわってくるため、今後のライフプランを考えることの啓発が必要と考えられます。

## ◆結婚の時期（2区分）別／結婚生活について不安に感じること

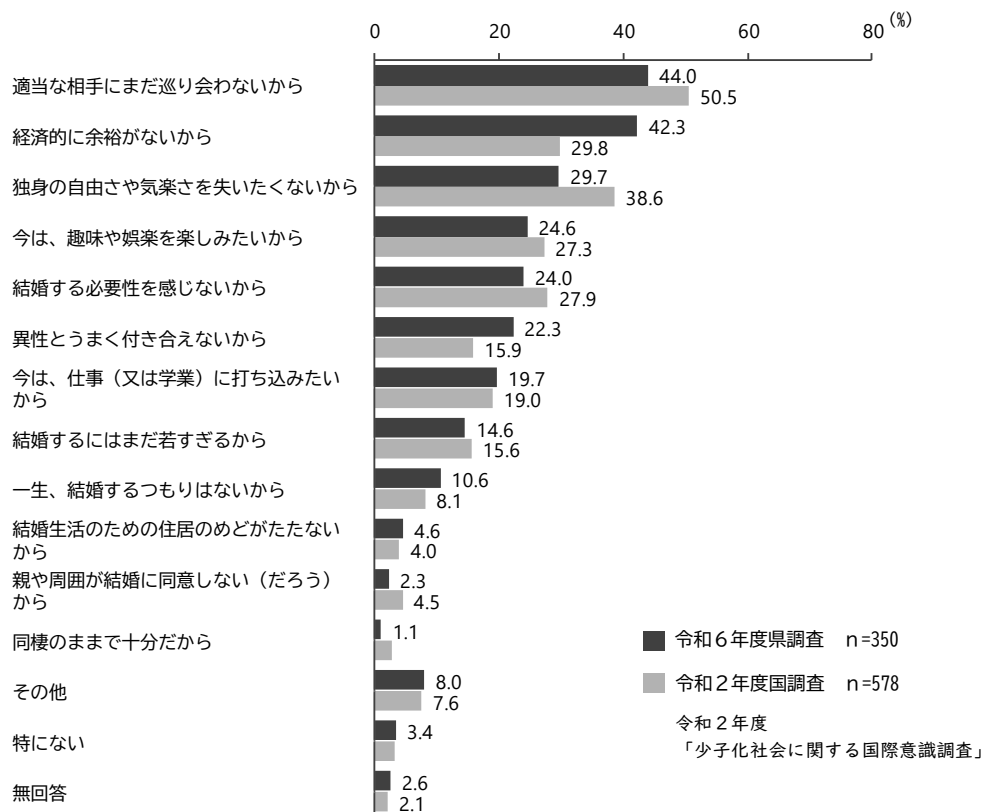


結婚の時期（2区分）別にみると、『結婚するつもりはない』人では「自分の自由の制約」が『結婚したい』（「1年以内に結婚したい」＋「2～3年以内に結婚したい」＋「いずれは結婚したい」の合計）人に比べ29.4ポイント高くなっています。

## 3-11 現在結婚していない理由

問 24 あなたが現在結婚していない理由を、次の中から選ぶとすればどれですか。当てはまるものから順に3つまで選んで、回答欄に番号をご記入ください。

※複数回答として集計



現在結婚していない理由について、上位3項目を合わせて集計したところ、「適当な相手にまだ巡り会わないから」が44.0%と最も高く、次いで「経済的に余裕がないから」（42.3%）、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」（29.7%）となっています。

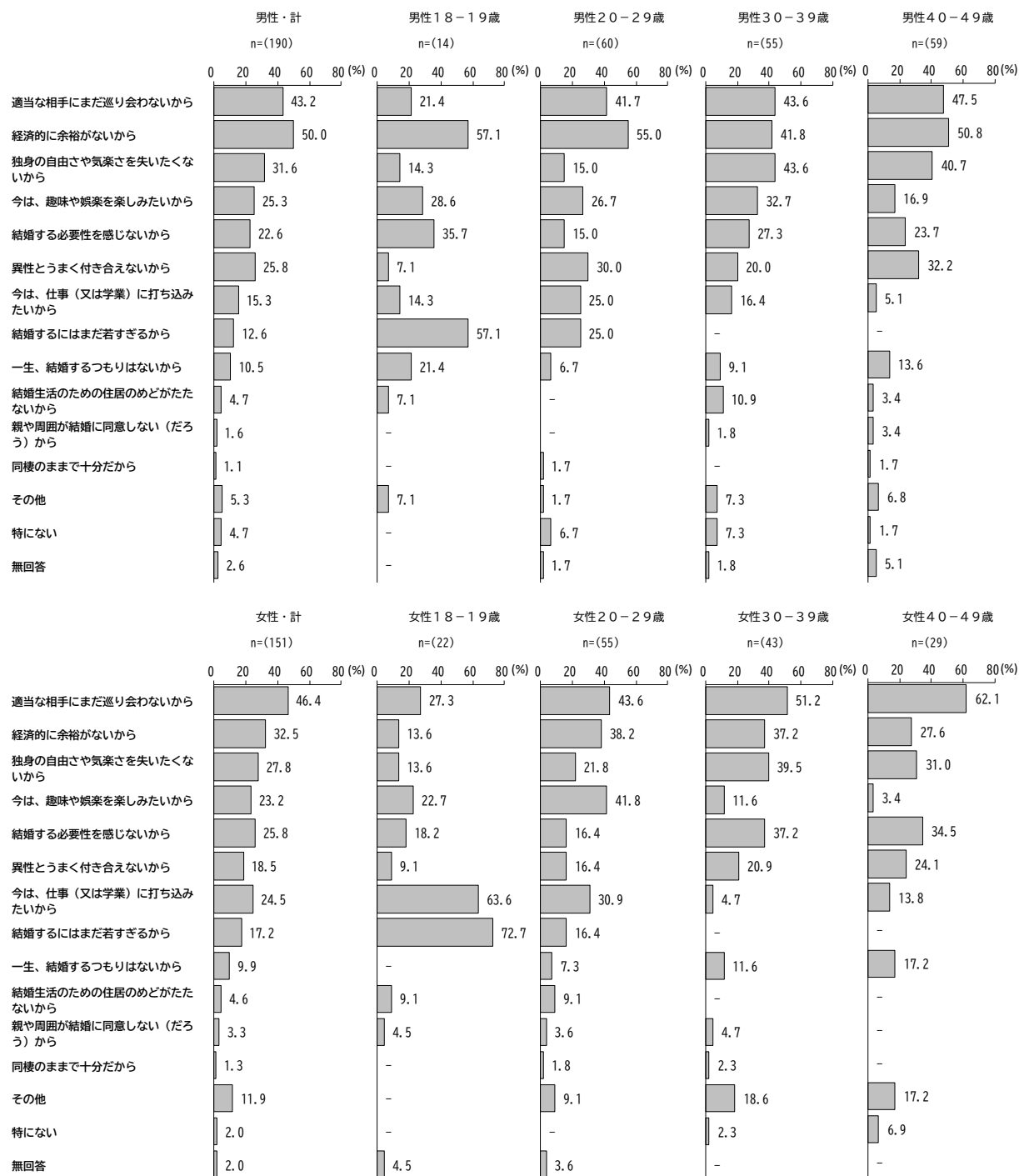
令和2年度国調査と比較すると、「経済的に余裕がないから」が12.5ポイント高くなっています。一方、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が8.9ポイント低くなっています。

経済的に余裕について令和2年度時点の世帯の消費構造を基準（100とする）に消費者物価指数をみると、令和5年度時点でいずれの品目も100以上となっており、かつエンゲル係数（消費支出に占める食料費の割合）も年々増加傾向にあることから物価の上昇は観測されます。

項目	平成28年平均	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
エンゲル係数(%)	25.7	25.5	25.5	25.4	27.0	26.6	26.0	27.1

令和5年度  
「家計調査年報（家計収支編）」

## ◆性年代別／現在結婚していない理由



性年代別にみると、「適当な相手に巡り合わないから」「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」は、男女ともに概ね年代が上がるにつれて高くなる傾向にあります。また、男性では「経済的に余裕がないから」が全ての年代で女性に比べ高く、男性・計は女性・計に比べ17.5ポイント高くなっています。男性18-29歳では「経済的に余裕がないから」、男性30-49歳では「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」、女性30-49歳では「結婚する必要性を感じないから」が全体と比べて10ポイント以上高くなっています。また、女性18-29歳では「今は、仕事（又は学業）に打ち込みたいから」が同年代の男性に比べて高くなっています。

## 4 子どもや育児について

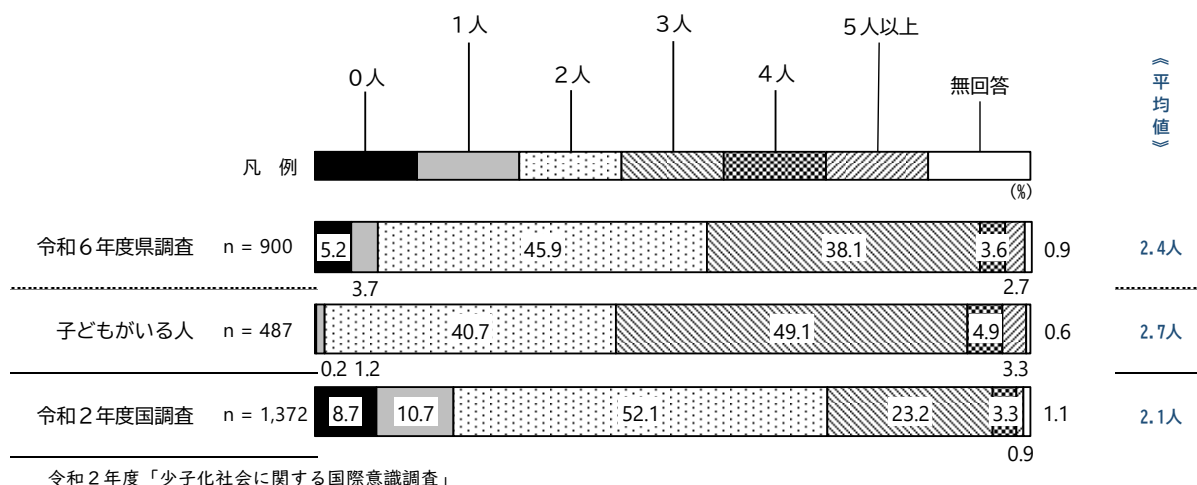
### 4-1 理想の子どもの人数

問 26 あなたにとって、理想の子どもの人数は何人ですか。また、現実には持っている子どもの人数は何人ですか。

※現在子どもがいる方は、その子どもも含めた人数をお答えください。

※子どもを持つつもりがない方は、「0」とご記入ください。

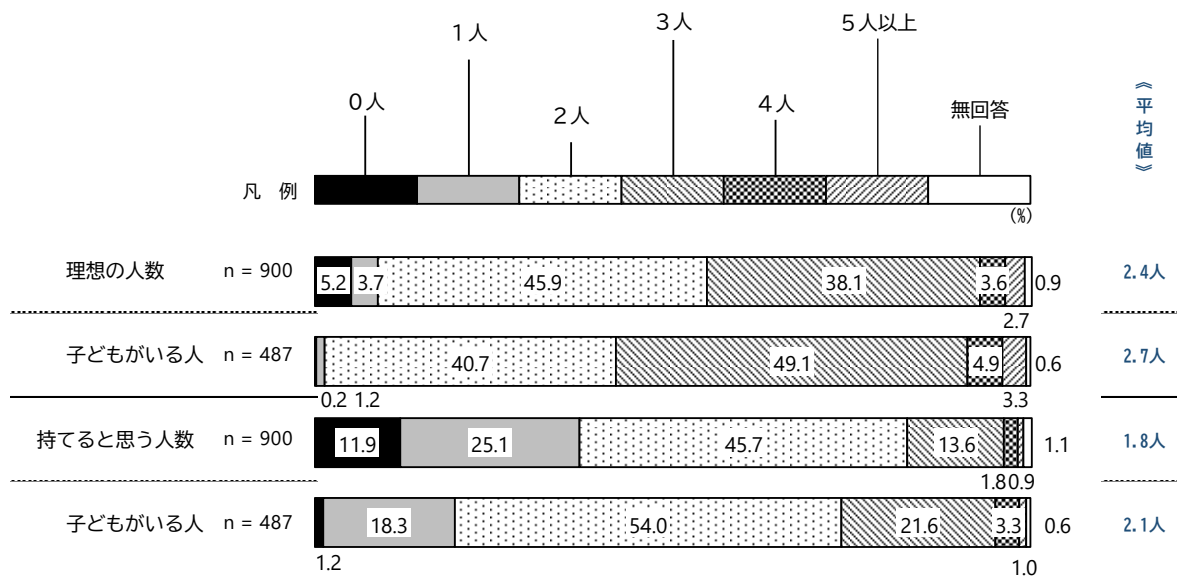
#### ◆理想の人数 令和2年度国調査との比較



理想の子どもの人数について、「2人」が45.9%と最も高く、次いで「3人」(38.1%)、「0人」(5.2%)となっています。特に子どもがいる人では理想の人数が平均2.7人と多くなっています。

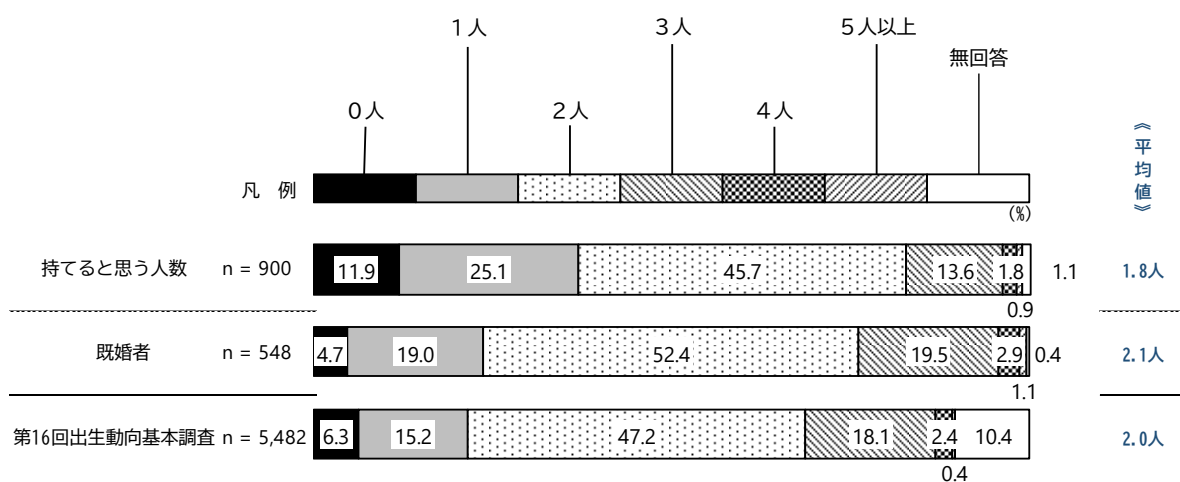
令和2年度国調査と比較すると、全体の平均値は2.4人と国調査を上回っています。

◆理想の人数と実際に持てると思う人数



理想の子どもの人数と実際に持てると思う人数を比較すると、実際に持てると思う人数では平均値が1.8人と理想の人数を下回っています。子どもがいる人では、実際に持てると思う子どもの人数の平均値は2.1人と全体の平均値を0.3人上回っています。

(参考) 令和6年県調査の実際に持てると思う人数と第16回出生動向基本調査(2021年 国立社会保障・人口問題研究所)の予定子ども数



(参考) 第16回出生動向基本調査(2021年 国立社会保障・人口問題研究所)

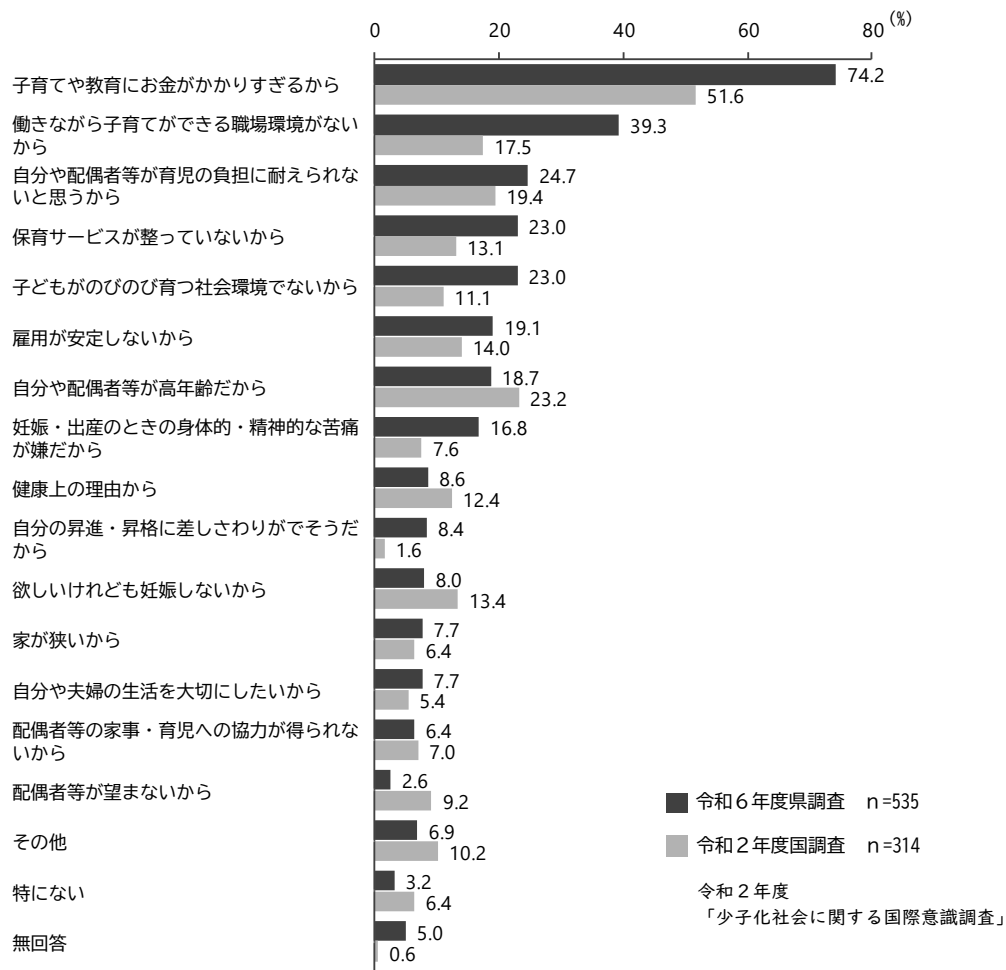
	N = 5,482	
子どもはいらない	267	4.9%
1人	290	5.3%
2人	2,892	52.8%
3人	1,624	29.6%
4人	182	3.3%
5人以上	21	0.4%
不詳	206	3.8%

	N = 5,482	
子どもは持たない	348	6.3%
1人	836	15.2%
2人	2,586	47.2%
3人	990	18.1%
4人	130	2.4%
5人以上	23	0.4%
不詳	569	10.4%

## 4-2 実際に持てると思う子どもの数が理想より少ない、または子どもを持つつもりがない理由

【問 26 で、実際に持てると思う子どもの人数が理想の人数に比べ少ない方、または理想の人数が0人の方にお伺いします】

問 27 その理由として、考えられるものはなんですか。(〇はいくつでも)



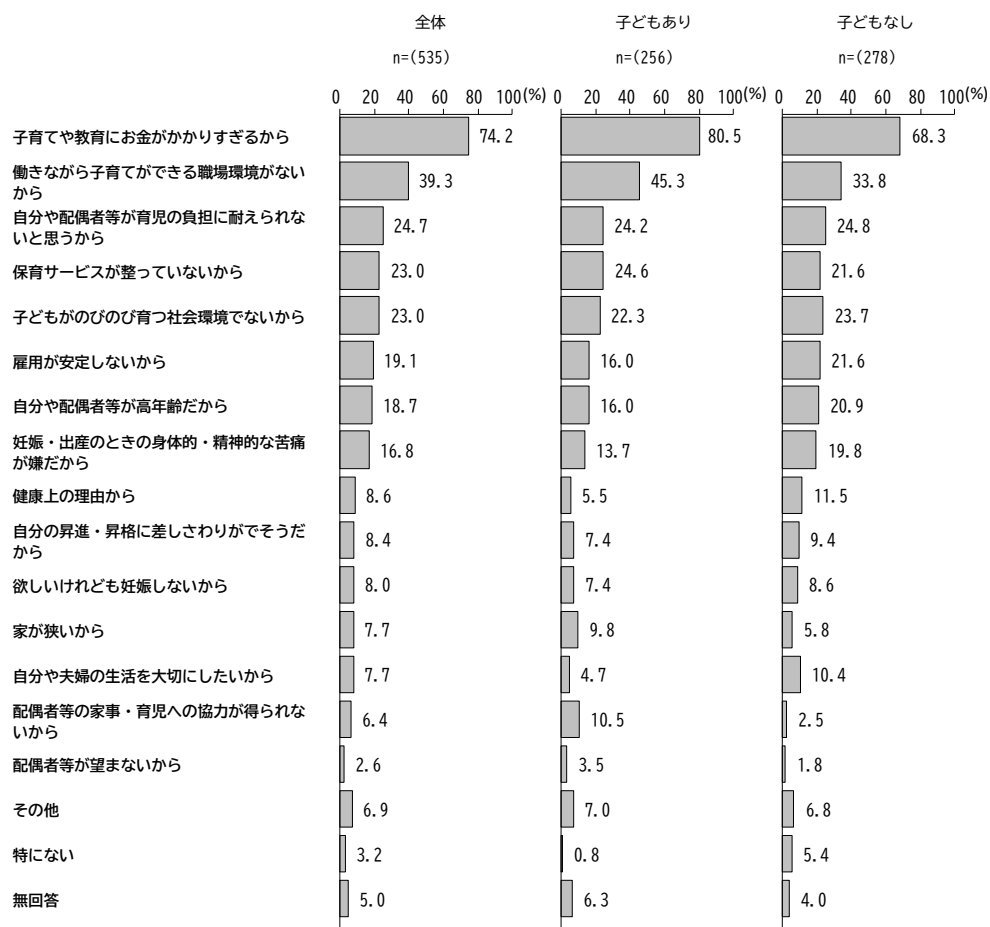
※令和2年度国調査では「希望する数まで又は今よりも子供を増やさない（増やせない）理由」として聴取している

実際に持てると思う子どもの数が理想より少ない、または子どもを持つつもりがない理由について、「子育てや教育にお金がかかりすぎているから」が74.2%と最も高く、次いで「働きながら子育てができる職場環境がないから」(39.3%)、「自分や配偶者等が育児の負担に耐えられないと思うから」(24.7%)となっています。

聴取内容が異なるため参考程度の比較になりますが、令和2年度国調査と比較すると、「子育てや教育にお金がかかりすぎているから」が回答率第1位であることは同様であるものの、第2位が令和2年度国調査では「自分や配偶者等が高年齢だから」であるのに対し、令和6年度県調査では「働きながら子育てができる職場環境がないから」となっています。

## ◆子どもの有無別／

実際に持てると思う子どもの数が理想より少ない、または子どもを持つつもりがない理由



子どもの有無別にみると、子どもありの人では「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が子どもなしの人に比べ12.2ポイント、「働きながら子育てができる職場環境がないから」が11.5ポイント高くなっています。一方、「妊娠・出産のときの身体的・精神的な苦痛が嫌だから」は6.1ポイント低くなっています。

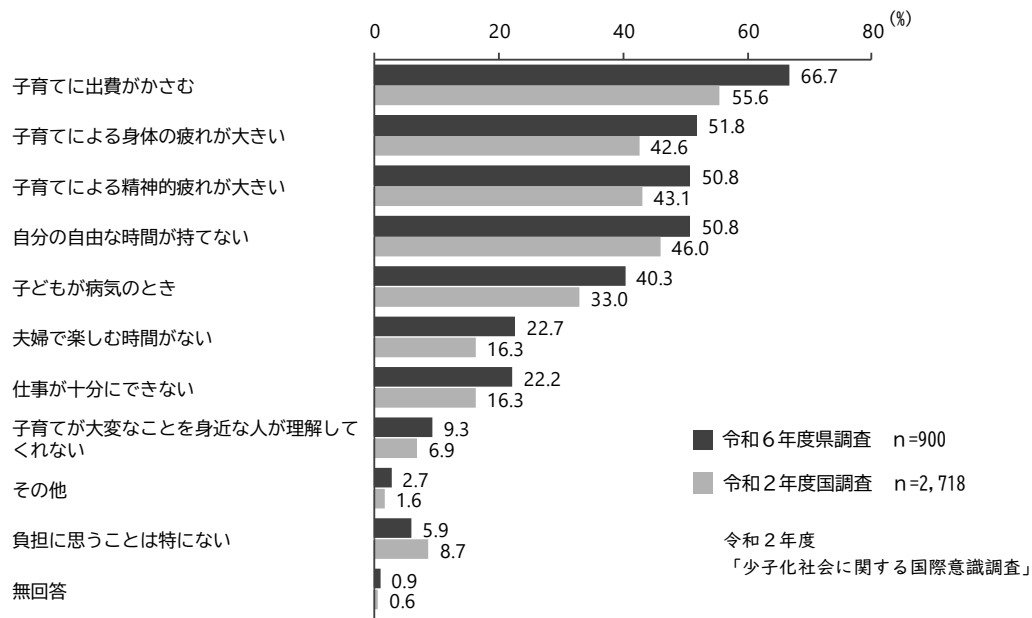


## 4-3 子育てをされていて負担に思うこと

問 29 あなたが、子育てをされていて、自分にとって負担に思うことはどんなことですか。

※子どもがいない方は、仮にご自分が子育てをする場合を想定して選んでください。

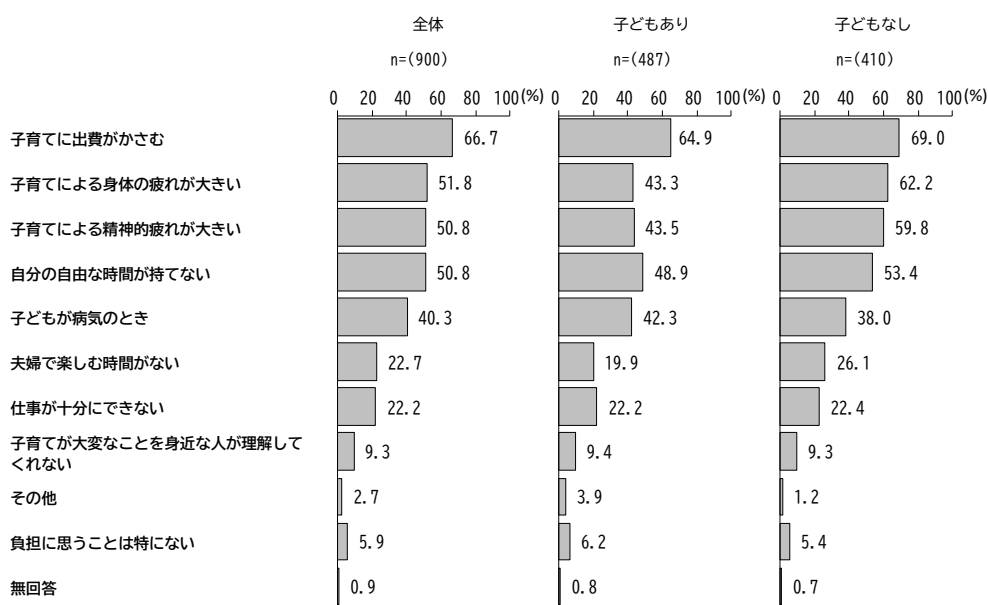
(○はいくつでも)



子育てをされていて負担に思うことについて、「子育てに出費がかさむ」が66.7%と最も高く、次いで「子育てによる身体の疲れが大きい」(51.8%)、「子育てによる精神的疲れが大きい」「自分の自由な時間が持てない」(ともに50.8%)となっています。

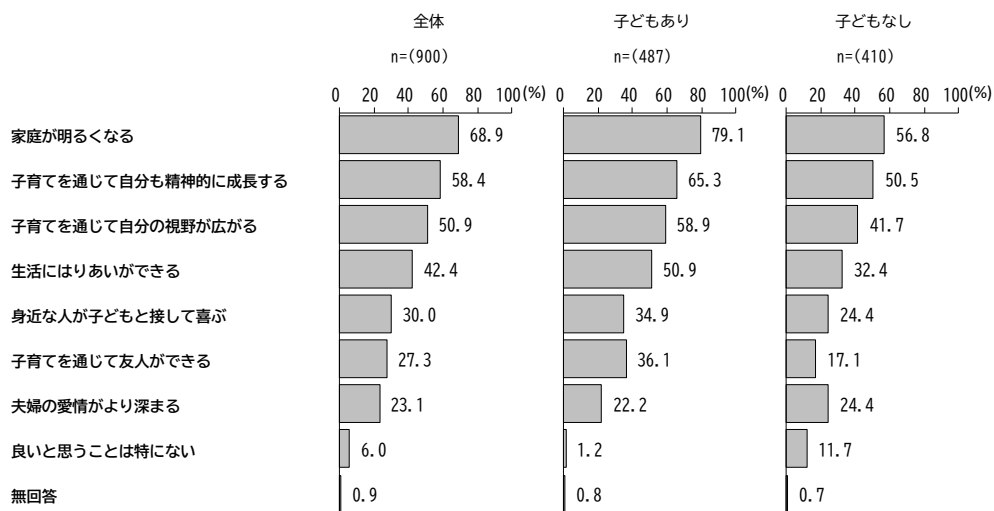
令和2年度国調査と比較すると、「子育てに出費がかさむ」が11.1ポイント高くなっているものの、全体的な回答割合に大きな差はみられませんでした。

## ◆子どもの有無別／子育てをしていて負担に思うこと



子どもの有無別にみると、子どもなしの人は子どもありの人に比べ多くの項目で割合が高くなっており、特に、「子育てによる身体の疲れが大きい」が18.9ポイント、「子育てによる精神的疲れが大きい」が16.3ポイント高くなっています。子どもなしの人は、実際に子育てを経験した人よりも子育てについてネガティブな印象を持っていることがうかがえます。このため、子育てに対するネガティブな印象を緩和し、ポジティブな印象を増やす周知・啓発が重要と考えられます。

◆子どもの有無別／子育てをされていてよかったと思うこと（子どもがいない方は仮にいた場合を仮定して回答）

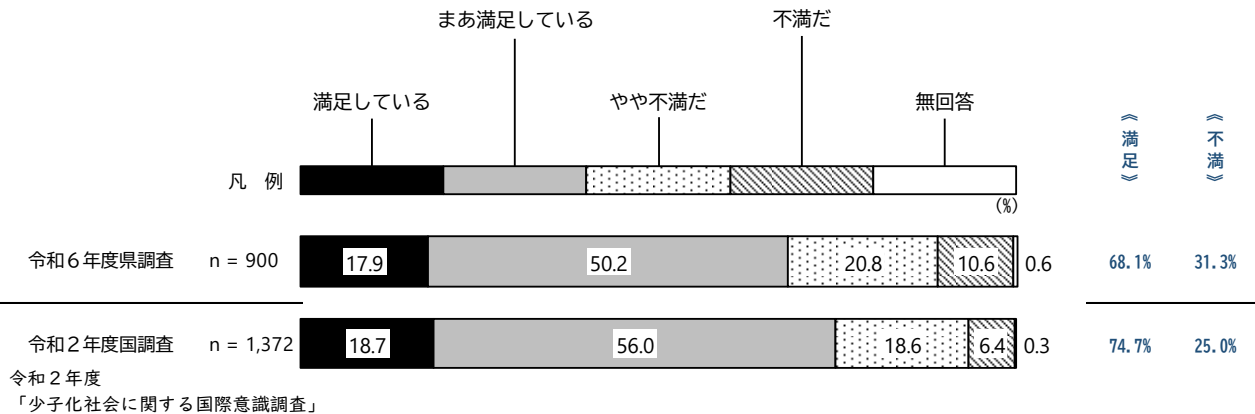


子どもの有無別に子育てをされていてよかったと思うことみると、子どもなしの人では「良いと思うことは特にない」が子どもありの人に比べて 10.5 ポイント高くなっています。子どもありの人では「家庭が明るくなる」が 20 ポイント以上、「子育てを通じて自分の視野が広がる」「生活にはりあいができる」「子育てを通じて友人ができる」が子どもなしの人に比べて 15 ポイント以上高くなっており、特にこれらが子育てに対するポジティブな印象となっています。

## 5 仕事と生活について

### 5-1 現在の生活にどの程度満足しているか

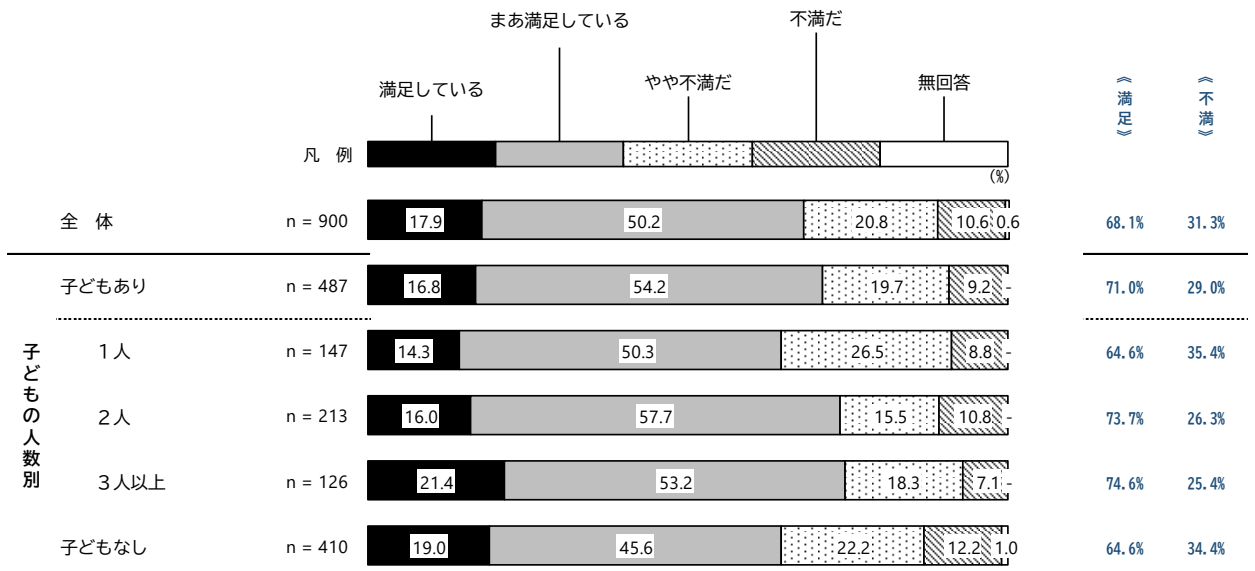
問 30 あなたは、全体として、現在の生活にどの程度満足していますか。(〇は1つ)



現在の生活にどの程度満足しているかについて、「まあ満足している」が50.2%と最も高く、次いで「やや不満だ」(20.8%)、「満足している」(17.9%)となっています。《満足》(「満足している」+「まあ満足している」の合計)は、約7割となっています。

令和2年度国調査と比較すると、《満足》が6.6ポイント低くなっています。

#### ◆子どもの人数別／現在の生活にどの程度満足しているか

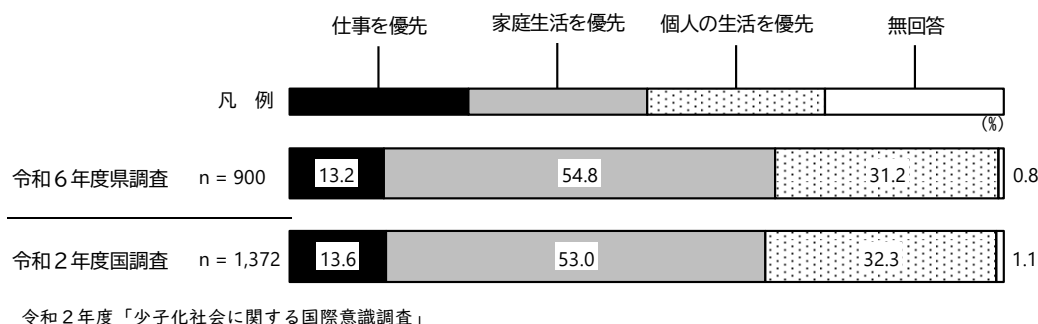


子どもの人数別にみると、子どもありの人では《満足》が子どもなしの人に比べ高くなっています。子どもが1人の人の場合では《満足》が64.6%と、子どもなしの人と同様の値となっていますが、子どもが2人以上の人では《満足》が7割以上と高くなっています。

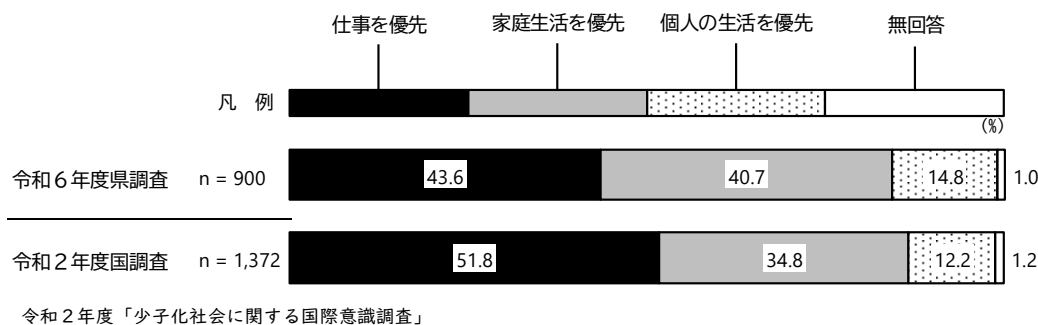
## 5-2 仕事、家庭生活、個人の生活等の優先度

問 31 現在のあなたの日常における、仕事、家庭生活、個人の生活等の優先度をうかがいます。

(A) および (B) について、あなたのお考えに最も近いものをひとつずつお選びください。(○は1つずつ)

(A) 希望にもっとも近いもの(B) 現実にもっとも近いもの

※学生の方は、「仕事」を「学業」と考えてお答えください。



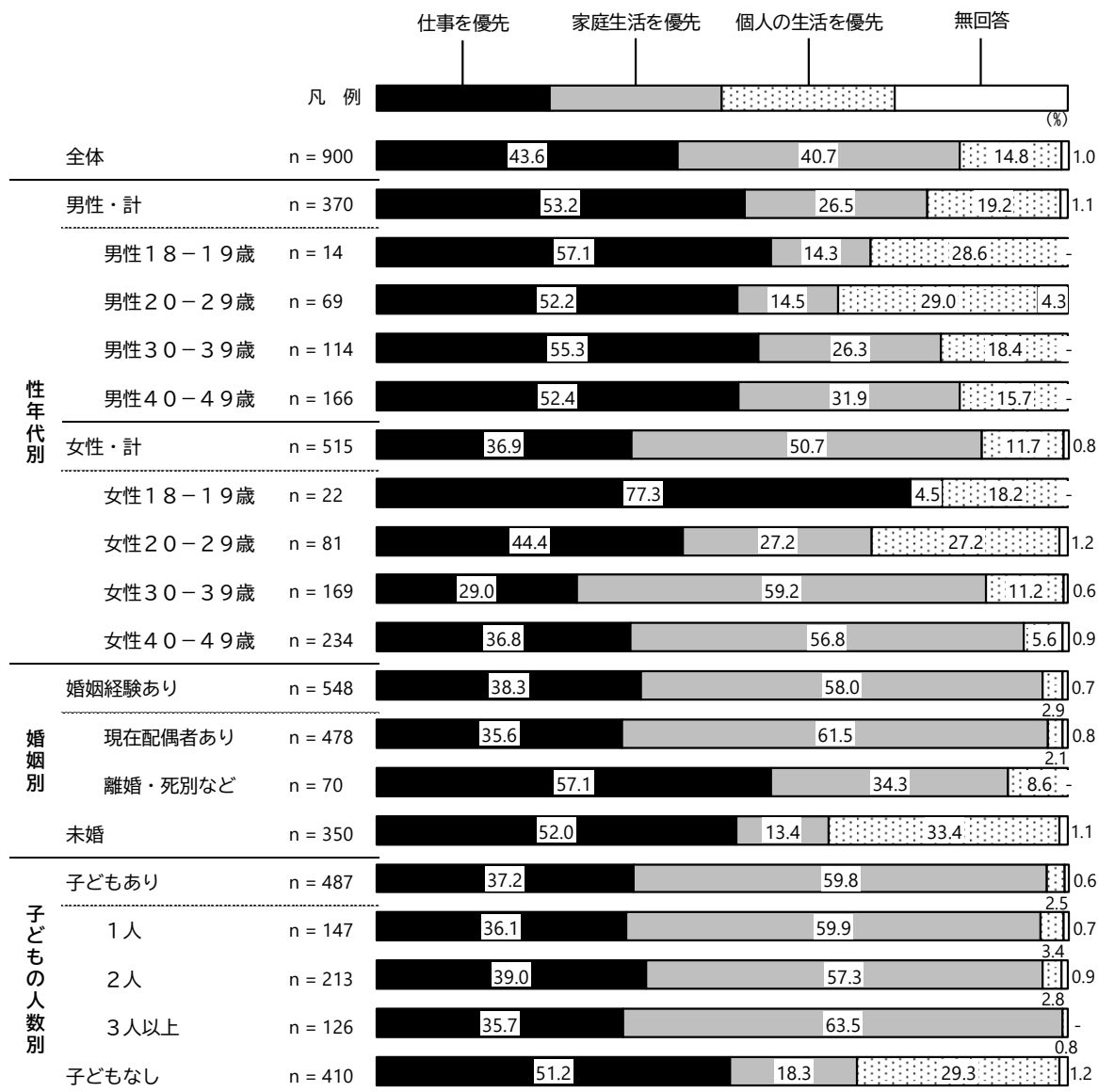
仕事、家庭生活、個人の生活等の優先度の希望については、「家庭生活を優先」が54.8%と最も高く、次いで「個人の生活を優先」(31.2%)、「仕事を優先」(13.2%)となっています。令和2年度国調査と比較すると、回答結果に大きな差はみられませんでした。

仕事、家庭生活、個人の生活等の優先度の現実については、「仕事を優先」が43.6%と最も高く、次いで「家庭生活を優先」(40.7%)、「個人の生活を優先」(14.8%)となっています。

令和2年度国調査と比較すると、「仕事を優先」が8.2ポイント低くなっている一方、「家庭生活を優先」が5.9ポイント高くなっています。

## ◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別

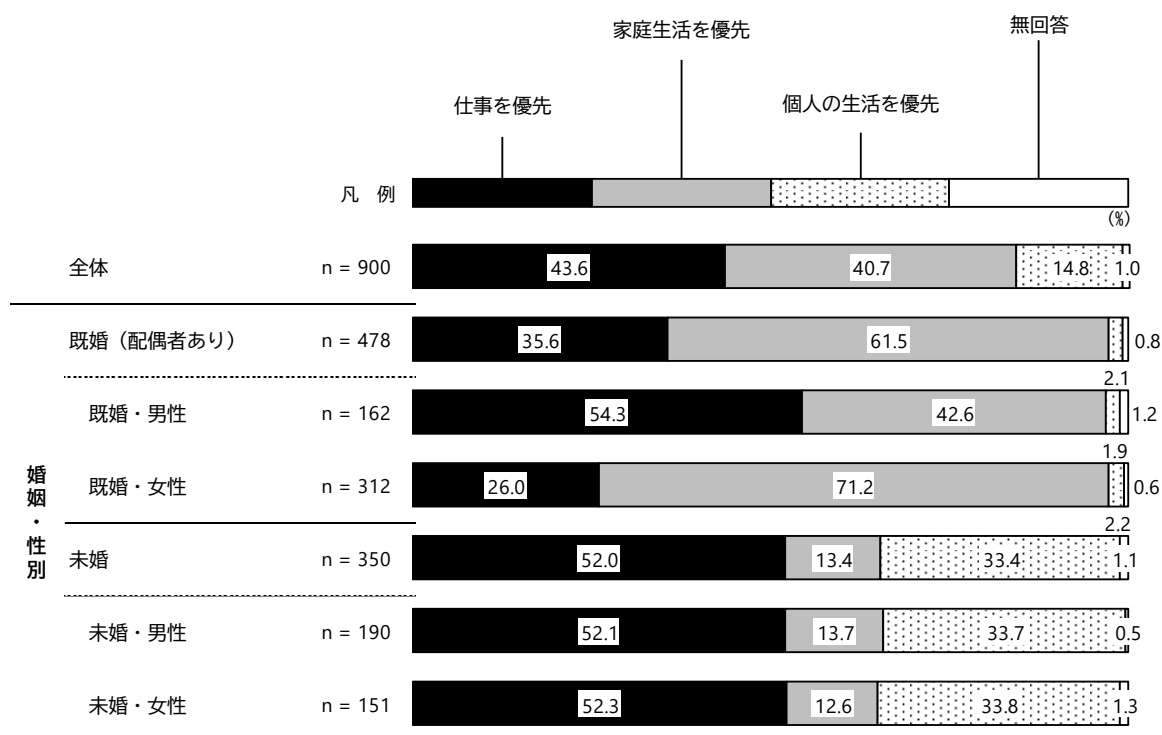
／仕事、家庭生活、個人の生活等の優先度（現実にもっとも近いもの）



性年代別にみると、男性では全ての年代で「仕事を優先」が半数以上となっています。

婚姻別、子どもの人数別にみると、婚姻経験ありの人、子どもありの人では「個人の生活を優先」が5%未満となっているものの、未婚の人、子どもなしの人では同割合が約30%となっています。

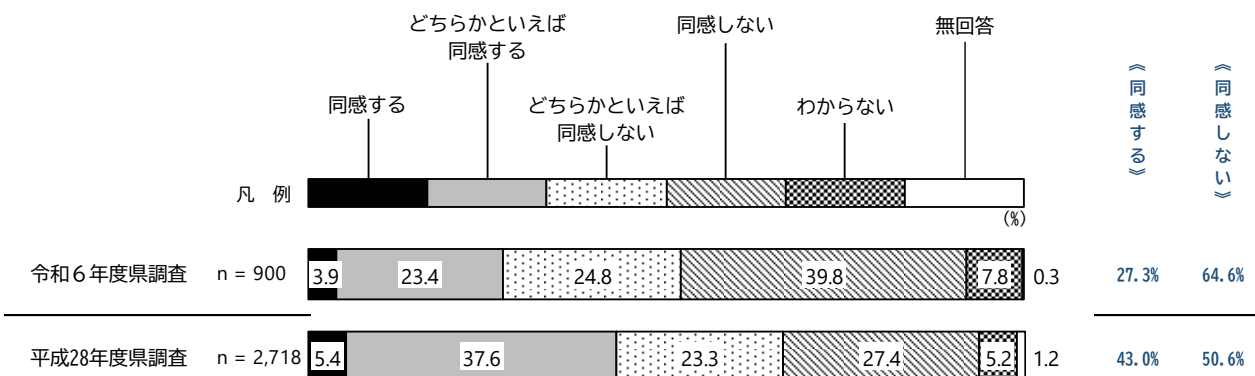
## ◆婚姻・性別／仕事、家庭生活、個人の生活等の優先度（現実にもっとも近いもの）



婚姻・性別にみると、既婚・男性ではいずれの婚姻・性別に比べて「仕事を優先」が最も高くなっています。既婚者（配偶者あり）のうち、男性では「仕事を優先」が女性に比べて28.3ポイントと極めて高くなっています。一方、既婚・女性では「家庭生活を優先」が最も高くなり、約7割を占めています。未婚の方では性差がみられませんが、既婚の方では仕事、家庭生活のバランスに大きな差がみられます。

## 5-3 「子育ては母親でなければならない」という考え方

問 33 あなたは、「子育てはやっぱり母親でなければならない」という考え方をどのように思いますか。(○は1つ)



平成 28 年度「宮城県 結婚・出産・子育てに関する意識調査」

「子育ては母親でなければならない」という考え方について、「同感しない」が 39.8%と最も高く、次いで「どちらかといえば同感しない」(24.8%)、「どちらかといえば同感する」(23.4%)となっています。また、《同感しない》(「どちらかといえば同感しない」+「同感しない」の合計)は6割以上となり、《同感する》(「同感する」+「どちらかといえば同感する」の合計)の27.3%を大幅に上回っています。

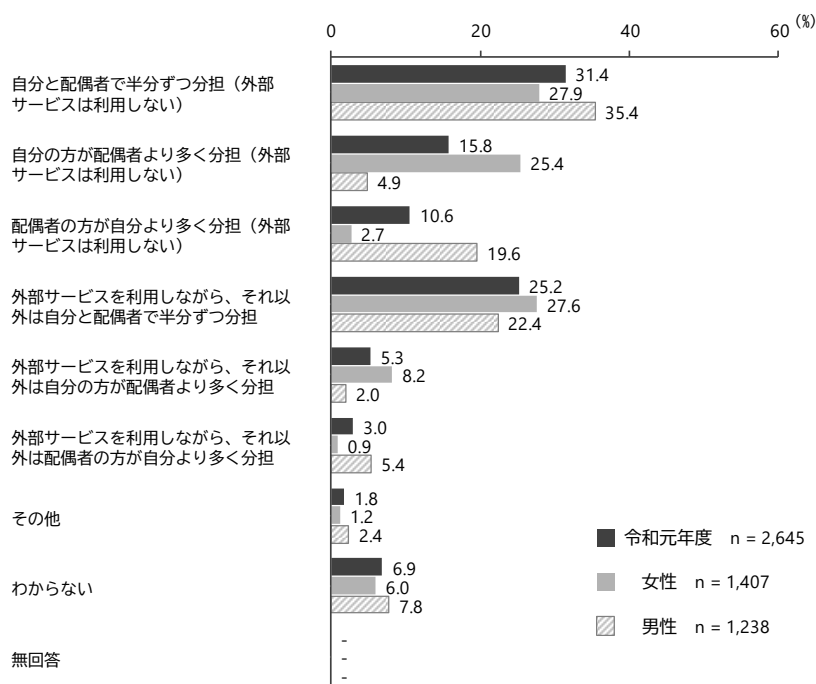
平成 28 年度県調査と比較すると、《同感する》が 15.7 ポイント低くなっています。



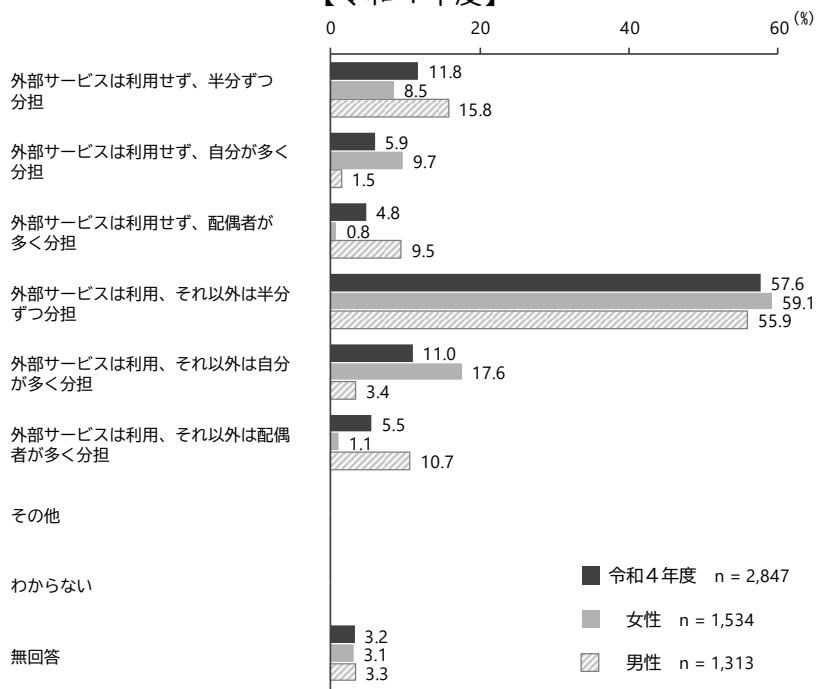
(参考) 令和元年度・4年度 男女共同参画社会に関する世論調査 (内閣府)

## ◆性別／育児に対する配偶者との役割分担

【令和元年度】



【令和4年度】

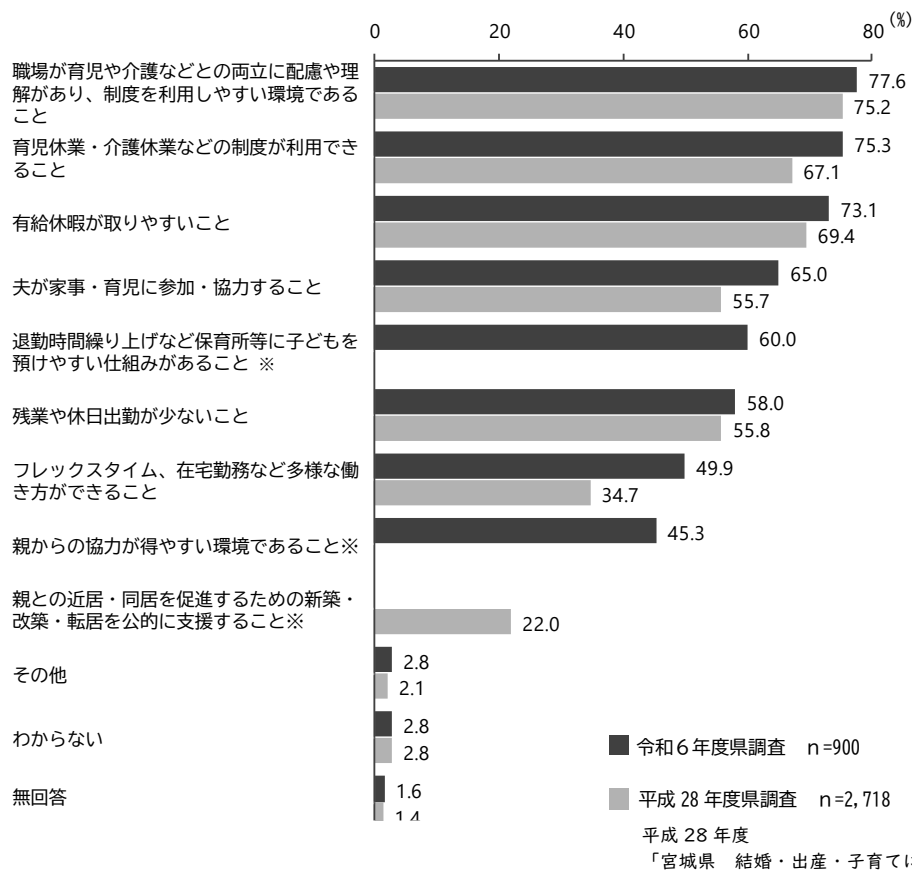


※令和4年度調査では「その他」「わからない」は未聴取

育児に対する配偶者との役割分担意識の変遷の補足として、男女共同参画社会に関する世論調査の令和元年度と令和4年度を比較すると、育児について自分または配偶者に偏った分担から、男女ともに「外部サービスは利用、それ以外は半分ずつ分担」が約5割と回答割合が高くなっています。令和6年度県調査でも「子育ては母親でなければならない」という考え方に《同感しない》が6割以上となっており、育児に対する偏った考えや役割分担への変化がうかがえます。

## 5-4 仕事と生活の調和を図るために必要だと思うこと

問 36 仕事と生活の調和を図るために必要だと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)



※「退勤時間繰り上げなど保育所等に子どもを預けやすい仕組みがあること」「親からの協力が得やすい環境であること」は平成28年度県調査では未聴取

※「親との近居・同居を促進するための新築・改築・転居を公的に支援すること」は令和6年度県調査では未聴取

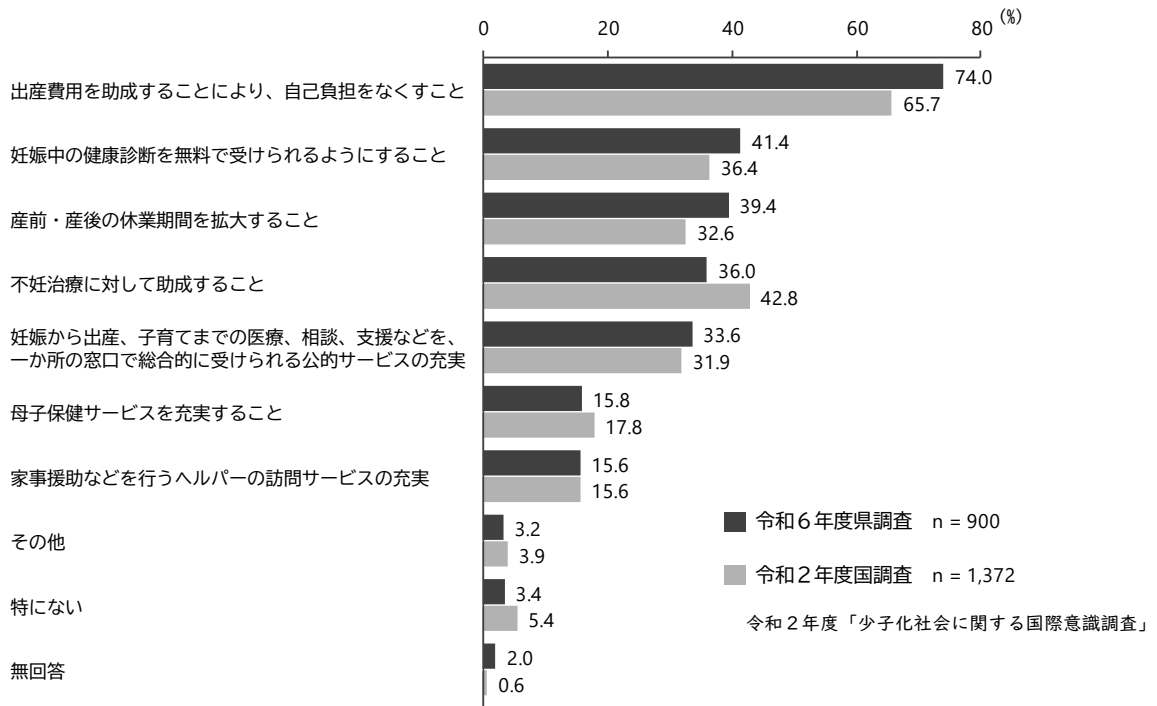
仕事と生活の調和を図るために必要だと思うことについて、「職場が育児や介護などとの両立に配慮や理解があり、制度を利用しやすい環境であること」が77.6%と最も高く、次いで「育児休業・介護休業などの制度が利用できること」(75.3%)、「有給休暇が取りやすいこと」(73.1%)となっています。

平成28年度県調査と比較すると、全ての項目で回答割合が高くなっており、特に「フレックスタイム、在宅勤務など多様な働き方ができること」が15.2ポイントと大幅に高くなっています。働き方改革や新型コロナウイルス感染症の流行などをきっかけに、多様な働き方への理解が広がったことがうかがえます。

## 6 行政の取組について

### 6-1 妊娠・出産時の身体的・精神的・経済的負担を軽減する施策で重要と思うもの

問 37 妊娠・出産時の身体的・精神的・経済的負担を軽減する施策として何が重要だと思いますか。  
次の中からあなたの考えに近いものを、3つまで選んでください。(〇は3つまで)

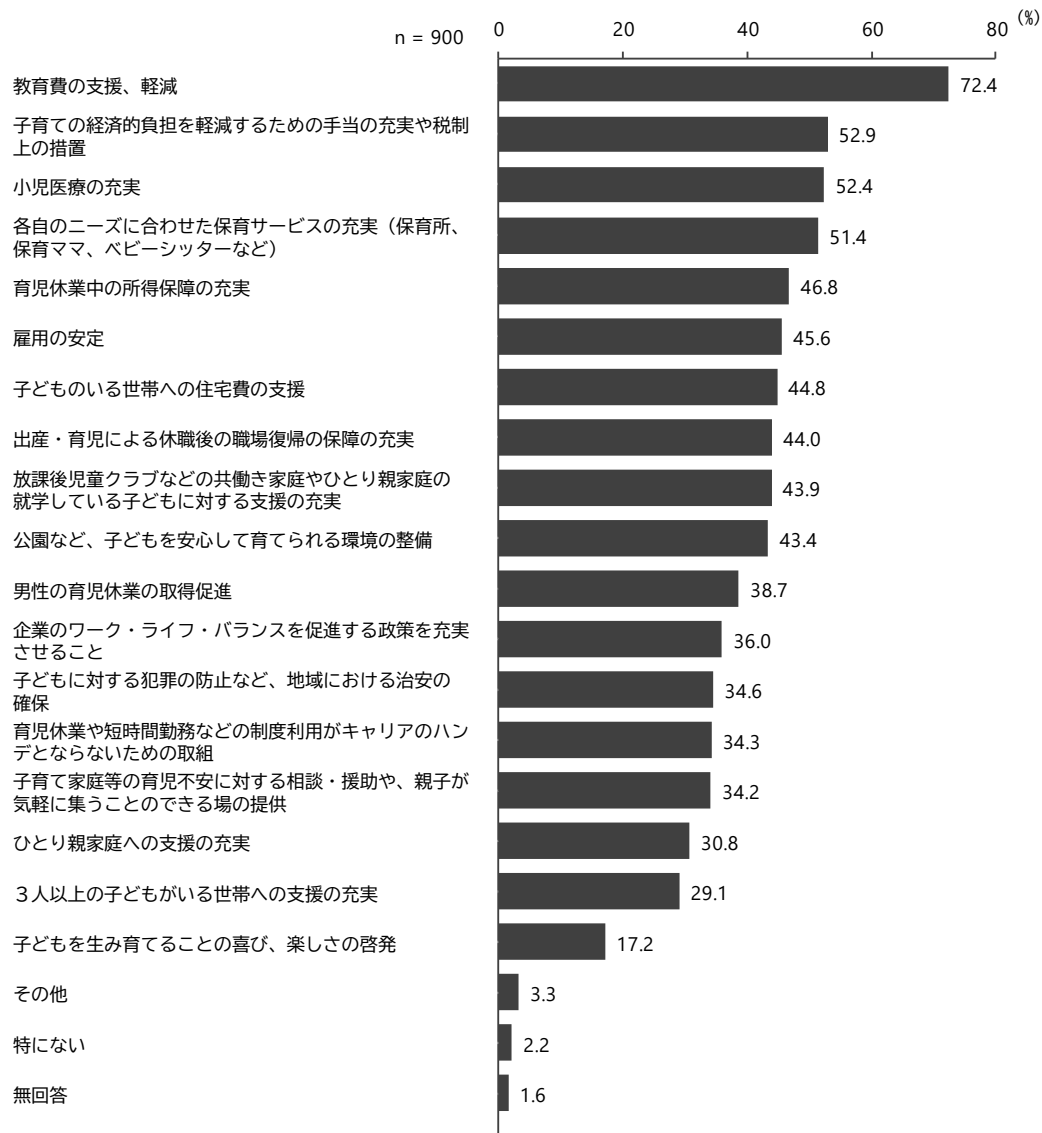


妊娠・出産時の身体的・精神的・経済的負担を軽減する施策で重要と思うものについて、「出産費用を助成することにより、自己負担をなくすこと」が74.0%と最も高く、「妊娠中の健康診断を無料で受けられるようにすること」(41.4%)、「産前・産後の休業期間を拡大すること」(39.4%)となっています。

令和2年度国調査と比較すると、「出産費用を助成することにより、自己負担をなくすこと」が8.3ポイント高くなっています。一方、「不妊治療に対して助成すること」は6.8ポイント低くなっています。

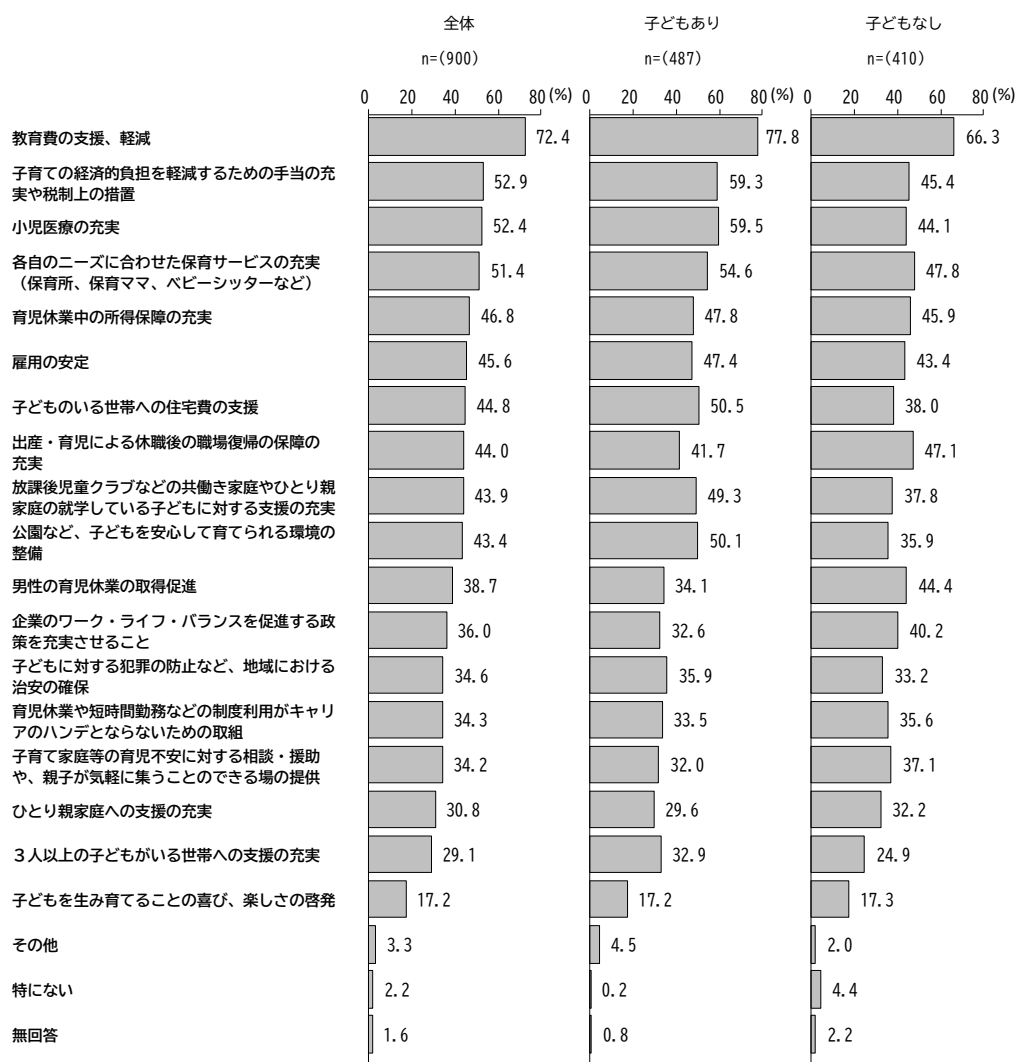
## 6-2 育児を支援する施策として重要だと思うもの

問 38 育児を支援する施策として何が重要だと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものを、いくつでも選んでください。(〇はいくつでも)



育児を支援する施策として重要だと思うものについて、「教育費の支援、軽減」が72.4%と最も高く、次いで「子育ての経済的負担を軽減するための手当の充実や税制上の措置」(52.9%)、「小児医療の充実」(52.4%)となっています。

## ◆子どもの有無別／育児を支援する施策として重要だと思うもの



子どもの有無別にみると、子どもありの人では「教育費の支援、軽減」「子育ての経済的負担を軽減するための手当の充実や税制上の措置」「小児医療の充実」「子どものいる世帯への住宅費の支援」「放課後児童クラブなどの共働き家庭やひとり親家庭の就学している子どもに対する支援の充実」「公園など、子どもを安心して育てられる環境の整備」が子どもなしの人に比べ10ポイント以上高くなっています。一方、「男性の育児休業の取得促進」は10ポイント以上低くなっています。

# Ⅲ 総括

## 1. 未婚者の増加と晩婚化の状況

- ・平成 28 年度県調査と比べて未婚者が増加傾向にあります。特に男性の未婚者が多くなっているものの、令和 6 年県調査の結婚に対する考えにおいて、男性は女性に比べて結婚した方がよいと考えている方が多くなっています。【P.5,6,14】
- ・未婚の方のうち、男女とも約 4 割が交際相手がいなくなっており、交際することを望んでいる方は平成 28 年度県調査と比べて減少傾向にあります。交際相手がほしくないことの理由として自分の自由にかかる制約への嫌悪感や、恋愛へ興味のなさがうかがえます。【P.25,26,29】
- ・理想の結婚時期について、男性ではできるだけ若いうちに結婚したい方が女性よりも多くなっています。女性ではある程度年齢を重ねてから結婚したいとの回答が多く、別の設問では 10~20 歳代のうちは趣味や仕事に打ち込みたい、30~40 歳代では結婚する必要性がないからとの回答が多くなっています。【P.19,34】
- ・昨今の女性の社会進出に伴い、働く女性が増えて仕事に打ち込む期間が長くなったことで結婚が遅くなっていることが考えられます。女性が働きながらもライフプランを考えられるような状況にしていくことが望まれます。

## 2. 社会情勢による先行きの不安感

- ・結婚に関して行政に実施してほしい取り組みとして、結婚前後の経済的支援や雇用の安定が望まれています。経済的に余裕がないために結婚に至れていないとの回答が女性に比べて男性で多くなっています。近年では新型コロナウイルス感染症による物価上昇、円安による経済的負担感の増加が消費物価指数などの統計データから見られます。生活の余裕のなさから、結婚してからの金銭的余裕のなさ等の不安感を高めていることが考えられます。【P.24,33,34】
- ・現実の仕事、家庭生活、個人の生活等の優先度をみた際に男性では、いずれの年代も「仕事を優先」と回答する方が半数を超えており、その割合は未婚の男性に比べ既婚の男性の方が高くなっています。このことから、男性には家計を支えるプレッシャーがうかがえます。【P.44,45】

## 3. 子どもを持ちたい希望はあるものの経済的不安を感じている現状

- ・理想の子どもの人数は国の令和 2 年度平均値を上回っており、県の出生率は低下しているものの、子どもを持つ意思はあることがわかります。しかし、実際に持てると思う人数は理想を下回り、理想の人数にいたらない、または子どもを持ちたくない方の意見として子育てや教育にお金がかかりすぎるといった回答が約 8 割と極めて高くなっています。特に、子どもがいる人では「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が子どもがいらない人に比べ 12.2 ポイント高く、子どもを複数人育てることの経済的負担を不安に感じているとみてとれます。【P.35,36,37,38】

#### 4. 男女共同参画意識の向上

- ・結婚相手に望むことでは平成 28 年県調査に比べて「家事を分担してくれること」が 11.6 ポイント高くなっており、「子育ては母親でなければならない」という考え方についても《同感しない》が 6 割以上となっています。家事育児とも夫婦間での分担を一方に偏らないようにする男女平等の意識が広がってきています。【P.20,46】
- ・一方で、男女のワーク・ライフ・バランスは仕事のみ、家庭生活のみ、といった偏りは解消されつつありますが、結婚を機に男性では仕事がやや重くなるとともに家庭生活での比重が増加し、女性では仕事が急激に減少し、家庭生活での比重が増加することがうかがえます。また、男女とも「個人の生活を優先」との回答は未婚の頃に 3 割ほどみられましたが、結婚を機に 5%未満になります。【P.44,45】
- ・家事、育児といった家庭生活での男女共同参画意識の普及は進んできており、特に男性での参画意識がみられます。共育ての動きは少しずつ広まってきてはいますが、共働きの普及は一層推進の余地があるとみてとれます。